



国立大学法人

筑波技術大学

National University Corporation
Tsukuba University of Technology

文部科学省認定 教育関係共同利用拠点

障害者高等教育研究支援センター

教育アクセシビリティの向上を目指すリソース・シェアリング

～合理的配慮がなされた環境における高等教育修学の保証～

「障害者高等教育拠点」事業

H29 年度報告書

目次

事業概要	2
平成 29 年度の活動実績	3
活動報告	5
他大学の教職員を対象とした FD/SD 研修会の開催	6
キャリア発達支援	28
ろう者学教育コンテンツ	32
情報保障	37
体育・スポーツ	48
視覚障害学生支援	53
プロジェクトコーナー	55
巻末資料	71
開催報告（本学 Web サイト「ニュース」掲載）	72
取組担当者一覧	73

教育関係共同利用拠点「障害者高等教育拠点」事業概要

教育アクセシビリティの向上を目指すリソース・シェアリング ～合理的配慮がなされた環境における高等教育修学の保証～

筑波技術大学（以下、本学）は、わが国で唯一の聴覚障害者と視覚障害者のための高等教育機関です。開学以降、聴覚や視覚に障害のある学生に対する様々な情報保障技術や教育プログラムの開発、教育方法の研究開発を行ってきました。これらの成果が認められ、平成 22 年に文部科学省から「教育関係共同利用拠点 [障害者高等教育拠点]」として認定を受けました。

本事業は、本学がこれまで蓄積してきた指導・支援ノウハウを全国の高等教育機関に提供する取組であり、聴覚・視覚障害学生が在籍する大学等からの相談に対応するほか、障害特性に応じた教育コンテンツ・情報保障技術の提供、他大学の教職員を対象とした FD/SD 研修会の開催、他大学で開催される各種講習会への講師派遣等を実施しております。

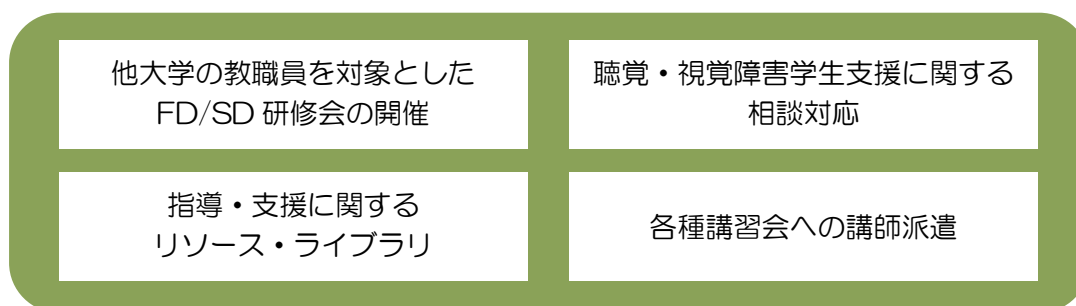
本事業の教育的リソースが活用されることにより、これから聴覚・視覚障害学生の支援を開始する大学等においても、情報授受のバリアのない修学環境の構築が促進されることで、全国の高等教育機関の教育アクセシビリティ向上の実現を目指します。

参考 Web サイト

文部科学省 教育関係共同利用拠点の認定について

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigakukan/1292089.htm

「障害者高等教育拠点」事業 4 本の柱



「FD/SD 研修会」の各回のテーマ、「指導・支援に関するリソース・ライブラリ」で作成するコンテンツのテーマ：

- キャリア発達支援
- ろう者学
- 情報保障（聴覚障害関連）
- 体育・スポーツ科目への支援
- 視覚障害学生支援
- 語学教育の指導・支援（聴覚障害関連）

平成 29 年度の活動実績

本事業の実績総数（利用者数・支援件数）

※各取組間実績の重複分を除いた数

利用		支援	
<ul style="list-style-type: none"> ●FD/SD 研修会参加者 ●広報（見学対応等） ●各種講習会開催への講師派遣 ●コンテンツ利用 ●支援技術提供 		<ul style="list-style-type: none"> ●相談およびアドバイス 	
のべ利用人数	大学実数	のべ支援件数	大学実数
2,126	194	67	35

「障害者高等教育拠点」事業「四本の柱」の実績

取組名	利用		支援	
	のべ 利用人数	大学実数	のべ 支援件数	大学実数
他大学の教職員を対象とした FD/SD 研修会の開催	51	16	7	5
各種講習会等への講師派遣（※1）	—	24	—	—
聴覚・視覚障害学生支援に関する 相談対応（※1）	—	—	33	18
指導・支援に関する リソース・ライブラリ利用（※1・2）	787	3	—	—
メールマガジン登録	358	157	—	—

※1 各種講習会への講師派遣、聴覚・視覚障害学生支援に関する相談対応、指導・支援に関するリソース・ライブラリの利用の実績については、各取組の実績と重複する。

※2 本学の機関リポジトリ Web サイトにおいて閲覧・ダウンロード数を含む。

各取組の実績一覧

取組名	利 用		支 援	
	のべ 利用人数	大学実数	のべ 支援件数	大学実数
キャリア発達支援	—	—	2	2
ろう者学教育コンテンツ（※1）	238	3	—	—
情報保障	156	8	20	10
視覚障害学生の修学支援	0	0	33	18
視覚障害情報保障機器の評価	40	1	4	4
体育・スポーツ	534	5	—	—
語学教育に関する アカデミック・アドバイスの提供	19	17	3	3
英語教育コンテンツ	—	—	—	—

※1：ろう者学教育コンテンツの利用実績は、他大学で開講された講義に取組担当者である教員2名が非常勤講師として担当した授業の履修人数（22人）を含む

各取組の実績のうち、大学等高等教育機関（本学を除く）を対象とした活動のみを記載する。

活動報告

【活動報告】

- 各取組の大学等高等教育機関（本学除く）の利用または支援について記載する。

他大学の教職員を対象とした FD/SD 研修会の開催

1. 取組の目的

本取組では全国の大学における障害学生指導・支援担当教職員を対象に、本事業および本センターで蓄積してきた聴覚・視覚障害学生の指導・支援に関するノウハウや情報を全国の大学に提供することを目的として、各種の FD/SD 研修会を開催した。研修会の開催にあたっては、これまで本学を中心に構築してきた障害学生支援ネットワーク（PEPNet-Japan（※1）、VISS-Net（※2））と連携して広く情報を共有し、本事業について周知と利用の促進を図ることで、全国の大学における聴覚・視覚障害学生の修学環境の向上に資することを目指した。

本事業は文科省より「大学の職員の組織的な研修等の実施機関（共同利用拠点）」として認定を受けていることから、他大学の教職員を対象とした FD/SD 研修会の開催および講師派遣については、本事業の主たる取組とする。そのため、取組毎に他大学教職員を対象として実施した研修会や講習会、および他大学で開催された研修会等への講師派遣についても記載する。

（※1）本センターに事務局を置く「日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク」。

（※2）本センター障害者支援研究部・支援交流領域が運営する「視覚障害学生支援メーリングリスト」。

2. 活動報告

1) 他大学の教職員を対象とした FD/SD 研修会の開催（企画・運営）

①第 10 回 FD/SD 研修会

「大学等における障害学生支援～聴覚・視覚障害学生支援の事例に学ぶ～」

②「聴覚障害学生の語学教育のイコールアクセスを考える」

③日本特殊教育学会 第 55 回大会 自主シンポジウム企画

「大学等における障害学生のキャリア発達支援—聴覚・視覚障害学生を中心に—」

2) 講師派遣

①他大学で開催された FD/SD 研修会等への講師派遣

②他大学で開催された講習会（支援学生等が対象）への講師派遣

3) 広報活動

- ①平成 28 度事業報告書 Web 公開
- ②「障害者高等教育拠点」メールマガジンの配信
- ③パンフレット等配付
- ④事業 Web サイト更新
- ⑤展示ブースへの出展

4) 教育関係共同利用拠点間ネットワーク

5) 見学対応

6) 参考資料

- ①第 10 回 FD/SD 研修会 終了後のアンケート結果
- ②「聴覚障害学生の語学教育のイコールアクセスを考える」終了後のアンケート結果

.....

1) 他大学の教職員を対象とした FD/SD 研修会の開催（企画・運営）

本事業全体の取組として、平成 29 年 8 月 29 日に、第 10 回 FD/SD 研修会「大学等における障害学生支援～聴覚・視覚障害学生支援の事例に学ぶ～」を山形大学と共催した。研修会では、山形大学の障がい学生支援体制について説明したほか、本事業取組担当者より障害学生支援の学内連携の必要性と聴覚・視覚障害学生に対する情報保障について講演を行った。そのほか、本事業の取組担当者 3 名を含む 4 名が講師として、「聴覚障害学生支援」「視覚障害学生支援」2 つのワークショップを実施した。山形大学、東北や関東の大学等 10 大学から 32 名の参加があった。

平成 29 年 9 月 9 日に、筑波大学 東京キャンパス文京校舎を会場として、聴覚障害学生が履修する外国語科目の指導方法や情報保障を含む修学環境の整備等に関するシンポジウム「聴覚障害学生の語学教育のイコールアクセスを考える」を開催した。本シンポジウムは、「語学教育に関するアカデミック・アドバイスの提供」の取組の一環として企画した。ろう学校の教諭の参加も多くみられ、17 大学・機関から 19 名の参加があった。

平成 29 年 9 月 16 日～18 日に開催された日本特殊教育学会 第 55 回大会」において、キャリア発達支援の取組を主担当として、複数取組の協働および外部有識者を指定討論者として招聘し、[大学等における障害学生のキャリア発達支援－聴覚・視覚障害学生を中心に－] をテーマとした自主シンポジウムを企画・実施した。

開催月	場 所	研修会等のタイトル	参加者数
8月	山形大学	第10回 FD/SD 研修会「大学等における障害学生支援～聴覚・視覚障害学生支援の事例に学ぶ～」 ※山形大学と共催 情報保障 視覚障害学生支援	32名 (10大学)
9月	筑波大学 東京キャンパス	「聴覚障害学生の語学教育のイコールアクセスを考える」 語学教育に関するアカデミック・アドバイスの提供	19名 (17大学 ・機関)
9月	名古屋国際 会議場	日本特殊教育学会第55回大会 自主シンポジウム企画 「大学等における障害学生のキャリア発達支援 ー聴覚・視覚障害学生を中心にー」 キャリア発達支援	

※日本特殊教育学会第55回大会で企画した自主シンポジウムは、学会参加者が特別支援学校、大学等の教員等を含むことから、本事業のFD/SD研修会として位置づけた。

①第10回FD/SD研修会

「大学等における障害学生支援～聴覚・視覚障害学生支援の事例に学ぶ～」

【開催概要】

開催日時：平成29年8月29日（火） 13：30～16：30

会 場：山形大学 小白川キャンパス（山形県山形市小白川町一丁目4-12）

対象者：障害学生の指導・支援に携わる全国の高等教育機関の教職員、
教育関係機関（特別支援学校等を含む）の教職員、および研究機関の職員等

参加費：無料

主 催：筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター、山形大学

◆プログラム◆

13：00

受付開始

13：30～13：35

開会・挨拶

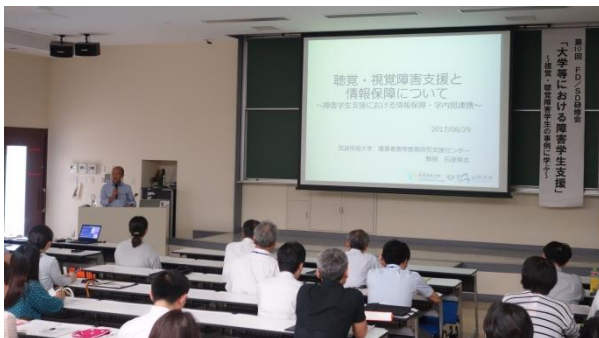
山形大学 理事・副学長 安田 弘法

- 13：35～13：50 **山形大学の障害学生支援体制について**
山形大学 障がい学生支援センター 有海 順子
- 13：50～14：10 **総論：聴覚・視覚障害支援と情報保障について**
筑波技術大学 副学長 石原 保志
- 14：10～16：15 **ワークショップ**
聴覚障害および視覚障害の疑似体験のほか、障害の特性に配慮した修学環境の整備や情報伝達の方法について具体例と共に体験的に学びます。
- ① 聴覚障害学生支援ワークショップ
筑波技術大学 産業技術学部 産業情報学科 河野 純大
筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 宇都野 康子
- ② 視覚障害学生支援ワークショップ
筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 宮城 愛美
筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 天野 和彦
※2 グループに分け、順次両方のワークショップにご参加いただきます。
- 16：20～16：30 **質疑応答・総括・閉会**

【実施報告】

平成 28 年度より障害者差別解消法が施行されたことに伴い、多くの大学で障害学生に対する支援体制の整備が進められており、一方で障害種別や障害学生のおかれる場面や状況によっても支援方法が異なることから、多様なニーズへの対応が課題となっている。

本研修会では、はじめに会場校である山形大学の障害学生支援体制について紹介がなされた。また、総論として障害学生支援の学内連携の重要性や聴覚・視覚障害学生に対する情報保障について解説したほか、聴覚・視覚障害それぞれの疑似体験をとおして、情報授受のバリアのない修学環境の整備や障害学生支援体制の充実に向けて大学教職員が身につけておくべき考え方やスキルについて学ぶワークショップを実施した。ワークショップでは、参加者を2グループに分け、各回60分程度の講座を2回実施することで、参加者全員に①聴覚障害学生支援ワークショップ、②視覚障害学生支援ワークショップに参加いただくことができた。



「総論：聴覚・視覚障害支援と情報保障について」解説の様子

ワークショップでは、聴覚障害・視覚障害の障害特性についての解説から始まり、情報保障の手段や支援機器の活用事例などを紹介した。

総括の時間には、障害のある在学生の支援に関する質問や、支援技術、具体的な配慮方法等についての質問等、活発な意見交換がなされた。



ワークショップの様子
①聴覚障害学生支援



ワークショップの様子
②視覚障害学生支援

教育関係共同利用拠点「障害者高等教育拠点」事業
第10回FD/SD研修会
大学等における障害学生支援
～聴覚・視覚障害学生支援の事例に学ぶ～

日時：平成29年8月29日（火）13時30分～16時30分
会場：山形大学 小白川キャンパス

筑波技術大学
National Institute of Advanced Industrial Science and Technology
山形大学
Yamagata University

当日資料表紙

障害者高等教育研究支援センター
障害者高等教育拠点事業

HOME | 事業概要

HOME / お知らせ / 【開催報告掲載】第10回FD/SD研修会「大学等における障害学生支援～聴覚・視覚障害学生支援の事例に学ぶ～」

【開催報告掲載】第10回FD/SD研修会「大学等における障害学生支援～聴覚・視覚障害学生支援の事例に学ぶ～」

2017/09/13

8月29日 火曜日に開催した第10回FD/SD研修会「大学等における障害学生支援～聴覚・視覚障害学生支援の事例に学ぶ～」の開催報告として、全体会報告（528KB）、ワークショップ報告（268KB）を掲載しました。

また、本研修会の様子は共催校である山形大学 ホームページにも掲載されています。

事業 Web サイトに掲載した開催報告
（各報告はダウンロードが可能）

②聴覚障害学生の語学教育のイコールアクセスを考える

【開催概要】

開催日時：平成 29 年 9 月 9 日（土） 13：00～16：40

会 場：筑波大学 東京キャンパス（東京都文京区大塚 3-29-1）

対象者：全国の大学教職員および聴覚障害学生の語学指導担当者・支援担当者

参加費：無料

主 催：筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター

◆プログラム◆

- 13：00～13：05 **開会・挨拶**
筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター松藤 みどり
- 13：05～13：35 **発表1**
【七人七色の支援：東海大学国際教育センターでの取り組みと課題】
東海大学 国際教育センター田頭 未希
- 13：35～14：20 **発表2**
【英語必修科目、第二外国語の授業状況（ディスカッション科目を中心に）】
立教大学 コミュニティ福祉学部福祉学科 大石 鮎美
【立教大学の支援状況について】
立教大学 しょうがい学生支援室 木山 直子
- 14：20～14：30 **休憩**
- 14：30～14：55 **発表3** 【聴覚障害学生への語学授業の支援：東京大学の事例】
東京大学 バリアフリー支援室 中津 真美氏
- 14：55～15：20 **発表4** 【本学の英語科目における合理的配慮と課題
ー担当教員、学生の振り返りからー】
九州ルーテル学院大学 人文学部心理臨床学科 佐々木 順二
- 15：20～15：45 **発表5** 【盲ろう児の英語学習の可能性】
筑波技術大学 大学院 技術科学研究科
情報アクセシビリティ専攻 森 敦史
- 15：45～15：55 **休憩**
- 15：55～16：05 **指定討論**
筑波技術大学 「障害者高等教育拠点」事業
【語学教育に関するアカデミック・アドバイスの提供】アカデミック・アドバイザー）
細野 昌子
- 16：05～16：35 **ディスカッション**（参加者からの質問事項を中心に）
- 16：35～16：40 **閉会挨拶**
筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター長 須藤 正彦

【開催報告】

本シンポジウムは、聴覚障害学生が履修する外国語科目の指導方法や情報保障を含む修学環境の整備と個々のニーズに対応するための知識・情報共有を目的として開催した。プログラムとして、他大学で外国語科目を担当する教員からの実践報告、障害学生支援に携わる教員から外国語科目の支援状況の報告のほか、他大学に在籍する聴覚障害学生および同大学の支援室コーディネーターから「外国語必修科目に関する支援状況」について発表を行った。また、本学の情報アクセシビリティ専攻で学ぶ森敦史氏は、外国語の学習体験や現在の

支援状況について発表を行った。

事例報告等の発表 6 件のほか、本取組のアカデミック・アドバイザー細野昌子氏より指定討論として発表内容を踏まえた課題が提起された。また、これらの課題を含め、会場の参加者の質問を基に、発表者全員によるパネルディスカッションを行った。

当日の情報保障体制は、手話通訳・読み取り通訳、文字通訳、触手話通訳を実施した。



会場（質疑応答）の様子



司会の松藤 みどり教授

日本特殊教育学会 第 55 回大会 自主シンポジウム企画

「大学等における障害学生のキャリア発達支援—聴覚・視覚障害学生を中心に—」

【開催概要】

開催日時：平成 29 年 9 月 16 日（日） 9：30～11：30

会 場：名古屋国際会議場（愛知県名古屋市熱田区熱田西町 1-1）

司 会：筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 石原 保志

話題提供：筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 石原 保志

筑波技術大学 産業技術学部産業情報学科 河野 純大

筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 宮城 愛美

筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 宇都野 康子

指定討論：株式会社 第一生命経済研究所 水野 映子

※水野映子氏の所属は平成 29 年 9 月時点。

【開催報告】

本シンポジウムでは、障害学生のキャリア発達支援について解説するとともに、障害学生が、特に大学在籍中に身につけるべき能力・スキル、獲得のための大学からのはたらきかけについて提案・討議を目的として企画・実施した。話題提供として、本学における実践事例のほか、他大学の事例から修学、就活などの各場面における発達の課題の働きかけや間接的体験の具体例等について紹介を行った。また、指定討論として、第一生命経済研究所 水野映子氏に、障害学生が大学を卒業した後の社会生活を見据え、障害者の職場環境の実態とキャリア発達の観点から課題を提起いただいた。

フロアからは、聴覚障害学生の情報保障活用スキルなどについても質問が挙がるなど、活発な意見交換がなされた。

2) 講師派遣

他大学で開催されたFD/SD研修会等への講師派遣

他大学で開催された障害学生支援、聴覚・視覚障害学生の修学支援に関する公開講座およびFD/SD研修会等へ講師を派遣した。

開催月		研修会等のタイトル	
9月	関東・国立大学	学生の抱える困難の理解と支援【教職員対象】	
11月	関東・私立大学	要支援学生対応についての研究部会【教職員対象】	
	関西・私立大学	障害学生の修学支援 ～聴覚障害学生に対する情報保障を中心に～【教職員対象】	
2月	関東・私立大学	聴覚障害学生支援に関する研修会【教職員対象】	情報保障
	関東・私立大学	視覚障害学生に対する合理的配慮など基本的考え 【教職員対象】	視覚障害学生支援
	中部・市立大学	聴覚障害者への対応について【教員対象】	情報保障
3月 (予定)	関東・私立大学	障害を持つ学生への対応～視覚障害を中心に～【職員対象】	視覚障害学生支援

※取組名を記載した講習会は、各取組報告にも記載する。

講師派遣

学生を対象とした講習会への講師派遣についても、本取組報告へ記載する。

開催月	内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ■パソコンノートテイク講習会：[情報保障] 1件 ■視覚障害者スポーツに関する講義と実習：[体育・スポーツ] 2件
5月	<ul style="list-style-type: none"> ■パソコンノートテイク講習会：[情報保障] 2件
6月	<ul style="list-style-type: none"> ■パソコンノートテイク講習会：[情報保障] 4件 ■視覚障害者スポーツに関する講義と実習：[体育・スポーツ] 2件
8月	<ul style="list-style-type: none"> ■視覚障害者スポーツに関する講義と実習：[体育・スポーツ] 2件
9月	<ul style="list-style-type: none"> ■パソコンノートテイク講習会：[情報保障] 2件
10月	<ul style="list-style-type: none"> ■聴覚障害者スポーツに関する講義：[体育・スポーツ] 1件
11月	<ul style="list-style-type: none"> ■パソコンノートテイク講習会：[情報保障] 2件
12月	<ul style="list-style-type: none"> ■パソコンノートテイク講習会：[情報保障] 2件 ■聴覚障害者スポーツに関する講義：[体育・スポーツ] 1件
2月	<ul style="list-style-type: none"> ■パソコンノートテイク講習会：[情報保障] 1件 ■支援学生を対象とした障がい学生支援技術養成講座：[視覚障害学生支援] 1件
3月 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ■パソコンノートテイク講習会：[情報保障] 1件 ■学生・学習支援研究会において講演：[視覚障害学生支援] 1件

※取組名を記載した講習会は、各取組報告にも記載する。

学会等での発表

本事業における取組実績を下記の学会で発表した。

開催月	内容
9月	<ul style="list-style-type: none"> ■「日本体育学会第68回大会」において拠点事業の実践内容を学会発表： [体育・スポーツ]

※取組名を記載した講習会は、各取組報告にも記載する。

3) 広報活動

本事業の利用促進に向け、各取組について紹介することを目的として、下記の活動を行なった。

①平成 28 年度事業報告書 Web 公開

平成 29 年 3 月に発行した「平成 28 年度事業報告書」を、本学の機関リポジトリ Web サイトにおいて閲覧・ダウンロードが可能な形で公開した。

Web 公開（本学機関リポジトリ）している事業報告書

1、平成 22～26 年度事業報告書

<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/repo/dspace/bitstream/10460/1486/5/309.pdf>

2、平成 27 年度事業報告書

<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/repo/dspace/bitstream/10460/1485/5/308.pdf>

3、平成 28 年度事業報告書

<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/repo/dspace/bitstream/10460/1575/1/330.pdf>

【各事業報告書の閲覧（ダウンロード）数】 ※左端番号は上記記載の各報告書番号を示す

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
1	23	33	23	18	29	19	21	26	11	11	19
2	25	27	44	47	31	24	13	21	13	10	22
3	26	15	11	23	19	26	30	27	24	15	18

期間：平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 2 月 28 日

②「障害者高等教育拠点」メールマガジンの配信

全国の高等教育機関教職員を対象に、本事業の活動や障害学生支援・指導に関するノウハウ、最新情報を発信することを目的として、「『障害者高等教育拠点』メールマガジン」の配信を月 1 回（第三金曜日）行なった。

本メールマガジンについては、研修会や広報活動の際にも案内し、登録希望者に対して手続き等、随時対応した。（平成 30 年 2 月現在の登録者数：他大学教職員 331 名・157 大学、関連機関 27 名・11 機関）

平成 29 年度は、これまで個人のメールアドレスで登録してきたが、障害学生支援を担当する部署の情報共有等を目的として、配信先を部署の共有アドレスに変更したいとの依頼が多く見られた。

メールマガジンでは毎号、FD/SD 研修会や各取組が行なう講習会・イベント・ポスター発表等の告知および報告、また、各取組で作成したコンテンツの紹介や活動報告等の情報を掲載した。また、毎号 1 取組の担当者が執筆を担当する「プロジェクトコーナー」では、活動紹介や支援・相談事例の紹介、ワンポイントアドバイス、関連情報等を掲載することで、より具体的に各取組の活動や関連情報、指導や支援方法のノウハウが提供できるよう努め

た。

定期的な情報発信を行うことで、コンテンツの利用問合せや、相談件数の増加など、各取組の利用の促進に繋げることができた。

【各号の概要】

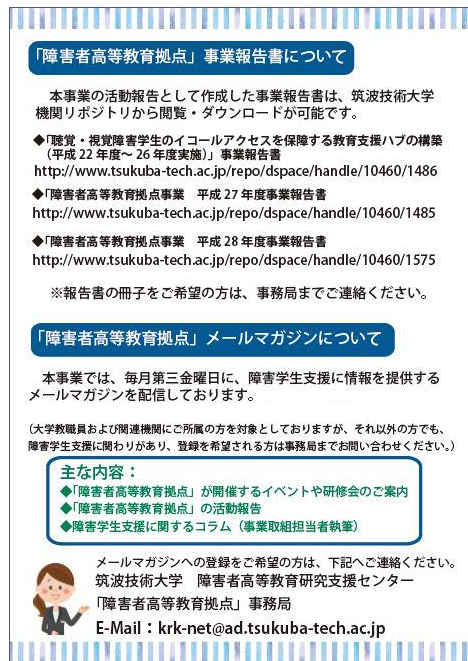
	配信日	内 容
第12号	4月17日	1. 平成28年度事業報告書の発行について 2. 「障害者高等教育拠点」事業ホームページを リニューアルしました！ 3. 【開催報告】「視覚障害学生の入学を控えた大学の交流会」
第13号	5月19日	1. 第10回FD/SD研修会開催について 2. プロジェクト・リレーコラム： 「視覚障害学生が履修可能な科目は？」 宮城 愛美 [視覚障害学生の修学支援] 担当 「授業の中でのコミュニケーション」 宇都野 康子 [情報保障] 担当
第14号	6月16日	1. 第10回FD/SD研修会開催について 2. プロジェクトコーナー 「支援活動をととしたキャリア発達」 宇都野 康子 [キャリア発達支援] 担当
号外	7月7日	1. 第10回FD/SD研修会「大学等における障害学生支援 ～聴覚・視覚障害学生支援の事例に学ぶ～」開催について (本学 障害者高等教育研究支援センター、山形大学共催)
第15号	7月21日	1. 【ご案内】第10回FD/SD研修会開催について 2. 【ご案内】「語学教育のイコールアクセスを考える」開催について 3. プロジェクトコーナー 「自立活動で必要なこととは？」 門脇 翠 [ろう者学] 担当
第16号	8月18日	1. 第13回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム 開催のご案内 2. プロジェクトコーナー 「聴覚障害学生に対する語学教育の指導・支援」 松藤 みどり [語学教育に関するアカデミック・アドバイスの提供] 担当

第17号	9月15日	<ol style="list-style-type: none"> 第10回FD/SD研修会「大学等における障害学生支援～聴覚・視覚障害学生支援の事例に学ぶ～」ワークショップ開催報告 プロジェクトコーナー 「遠隔情報保障システム[T-TAC Caption]の運用状況について」 三好 茂樹 [情報保障] 担当
第18号	10月20日	<ol style="list-style-type: none"> 「聴覚障害学生の語学教育のイコールアクセスを考える」開催報告 「第13回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム」の開催および企画について プロジェクトコーナー 「最近の視覚障害者・学生用の情報保障機器について」 飯塚 潤一 [視覚障害情報機器の評価] 担当
第19号	11月17日	<ol style="list-style-type: none"> 【活動報告】 「第13回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム」における本事業関連の企画実施について 事業ホームページ・動画ライブラリのご案内 プロジェクトコーナー 「障害学生に対する体育実技についてのデータベース公開について」 天野 和彦 [体育・スポーツ] 担当
第20号	12月15日	<ol style="list-style-type: none"> 【活動報告】「講習会への講師派遣」 プロジェクトコーナー 「図書館で働く視覚障害者」 宮城 愛美 [視覚障害学生の修学支援] 担当
第21号	1月19日	<ol style="list-style-type: none"> センターよりご挨拶 なごや会セミナーのご案内 プロジェクトコーナー 「聴覚障害学生の学外実習」 宇都野 康子 [キャリア発達支援] 担当
第22号	2月16日	<ol style="list-style-type: none"> 事業ホームページ・動画ライブラリのご案内 プロジェクトコーナー 「[段また段を成して]を通して」 門脇 翠 [ろう者学] 担当
第23号	3月16日 (配信予定)	<ol style="list-style-type: none"> 平成28年度事業報告書の発行について 【活動報告】「講習会への講師派遣」

③パンフレット等配付

本事業が開催する FD/SD 研修会のほか、他大学で開催される FD/SD 研修会への講師を派遣した際の配付資料として、パンフレットおよびアドバイスシートを配付した。また、障害学生支援に関連するシンポジウム等の展示ブースで配付した。

実施月	内 容
6 月	<ul style="list-style-type: none"> ■第 65 回全国ろうあ者大会「聴覚障害者の生活に関するバリアフリー展」事業パンフレット配布 80 部 [ろう者学] ■「AHEAD JAPAN 第 3 回大会」ポスター発表会場事業パンフレット・アドバイスシート配布 100 部 メールマガジン・事業ホームページ案内配布 100 部
8 月	<ul style="list-style-type: none"> ■第 10 回 FD/SD 研修会配付資料 事業パンフレット・アドバイスシート配布 52 部 メールマガジン・事業ホームページ案内配布 52 部 取組紹介チラシ（体育・スポーツ） 52 部
9 月	<ul style="list-style-type: none"> ■他大学で開催された公開講座 パンフレット・アドバイスシート配布 60 部 ■聴覚障害学生の語学教育のイコールアクセスを考える 事業パンフレット・アドバイスシート配布 40 部 メールマガジン・事業ホームページ案内配布 40 部 取組紹介シート（視覚障害学生支援） 40 部 ■他大学の障害学担当教員 取組紹介チラシ（体育・スポーツ） 1 部 ■本学 総合研究棟竣工式 来賓へのパンフレット配布：50 部
10 月	<ul style="list-style-type: none"> ■第 12 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム 事業パンフレット・アドバイスシート配布 400 部
11 月	<ul style="list-style-type: none"> ■他大学で開催された FD/SD 研修会（関西） 事業パンフレット・アドバイスシート配布 250 部 メールマガジン・事業ホームページ案内配布 250 部 ■他大学で開催された FD/SD 研修会（関東） 事業パンフレット・アドバイスシート配布 80 部 メールマガジン・事業ホームページ案内配布 80 部
2 月	<ul style="list-style-type: none"> ■他大学で開催された FD/SD 研修会（関東） 事業パンフレット・アドバイスシート配布 25 部 メールマガジン・事業ホームページ案内配布 25 部 ■他大学で開催された FD/SD 研修会（関西） 事業パンフレット・アドバイスシート配布 35 部 メールマガジン・事業ホームページ案内配布 35 部



事業ホームページおよび本学機関リポジトリ・メールマガジン案内(表・裏面)

④事業 Web サイト更新

本事業で作成してきたコンテンツ等を含む各種リソースのライブラリ構築を目的として、事業 Web サイトの更新を行った。

事業 Web サイトには、他大学の教職員を対象とした FD/SD 研修会等の開催案内・報告を掲載した。

⑤展示ブースへの出展

ポスターや成果物を展示し、本事業の活動を紹介した。また、関連するイベント(PEPNet-Japan 主催「第 13 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム」等)においても出展・広報活動を行なった。

4) 教育関係共同利用拠点間ネットワーク

平成 28 年 9 月に設立された「大学教育イノベーション日本」の活動として、加盟校同士の情報共有や、シンポジウム開催等の活動を行なった。

本団体は、国公立の設置形態の区別なく、「文部科学省より教育関係共同利用拠点として認定を受けている大学」「大学等の教職員を対象とした FD/SD 研修を実施している機関・団体」で構成されている。大学の教職員の能力開発、カリキュラムや教育方法の開発等の促進のほか、加盟している組織間の相互連携、交流を目的としており、加盟組織は全国の国公立 17 組織(16 大学、1 ネットワーク団体※平成 30 年 1 月現在)である。

本事業も教育関係共同利用拠点「障害者高等教育拠点」として文部科学省より認定を受けており、また「教職員の組織的な研修等の共同利用拠点」としても活動をしていることから、本団体に「障害者高等教育拠点」事業として加盟している。

大学教育イノベーション日本 ホームページ

<http://heij.ihe.tohoku.ac.jp/index.cgi>

平成 29 年 12 月 11 日に、平成 29 年度の総会および「第 2 回大学教育イノベーションフォーラム [大学教育開発の専門性を探る]」を開催した。

現在、本団体が掲げている「大学の教職員の能力開発」「カリキュラム・教育方法の開発」「教育マネジメント・組織開発等」、これらの総体としての [大学教育開発] を促進すべき時期にあると考え、大学教育開発の専門性を育成・確保するため、現状と課題の抽出、議論を深めることを目的としたフォーラムであり、4 名からテーマに沿った報告がなされた。ディスカッションの時間には、フロアから多くの質問が寄せられ、活発な意見交換が行われた。

5) 見学対応

①平成 29 年 9 月

人数：6 名（学生 5 名・職員 1 名）

内容：天久保キャンパス

学内 CATV 等を含む学内設備、遠隔情報保障のデモ

春日キャンパス

支援機器室、学内のバリアフリー環境、食堂

②平成 29 年 12 月（本学 総務課企画・広報係が受付対応）

人数：3 名（教員 3 名）

内容：天久保キャンパス

次年度に入学予定の聴覚障害学生の修学支援（外国語科目の指導・支援、情報保障、グループワーク時の配慮等）に関する相談対応

6) 参考資料

①第10回FD/SD研修会

「大学等における障害学生支援～聴覚・視覚障害学生支援の事例に学ぶ～」
終了後のアンケート結果

[参加者数 32 名、回答者数 30 名 (回収率 93.7%)]

【問1】職名についてお聞かせください。

① 教員 8名

② 事務系職員 21名

[職名：課長補佐・副課長(3)、係長(3)、主任(2)、一般職員(2)、再雇用職員
(1)、非常勤職員(1)、事務補佐員(4)、無記入(5)]

③ その他 1名 [コーディネーター(1)]

【問2】現在の所属部署についてお聞かせください。

① 障害学生支援に携わる部署 9名

② その他 20名

[教務系部署(7)、学部(4)、大学院(1)、課外活動系の学生支援部署(1)、
学生センター窓口(1)、留学支援担当(1)、事務部総務課(1)、無記入(4)]

③ 記載なし 1名

【問3】現在、貴学に聴覚・視覚障害学生は在籍していますか？

① はい 17名 [聴覚(25)、視覚(16)、人数記載なし(8)]

② 入学相談を受けている 3名 [聴覚(3)、視覚(2)]

③ いいえ 4名

④ わからない / 把握していない 8名

※①②には、聴覚・視覚障害学生両方が在籍している（または入学予定である）参加者も含まれる。

【問4】今回の研修会開催を何で知りましたか？（複数回答あり）

① 筑波技術大学ホームページ 0名

② 「障害者高等教育拠点」メールマガジン 4名

③ メールングリスト 6名 [PEPNet-Japan(3)・無記入(3)]

④ 開催校からの通知 8名

⑤ 開催校教職員からの情報 14名

⑥ その他 1名 [学内メール(1)]

【問5】本研修会の内容について、どのようなご意見、ご感想を持たれましたか。

①総論

- 障害学生支援の土台となる重要な内容について、ポイントを押さえて説明していただき、とても分かりやすかった。(同様5件)
- 疑似体験をすることで様々な気付きがあり、参加して良かったです。(同様3件)
- どのような支援が行われているのか具体的に知ることが出来てよかったです。(同様2件)
- 法律を体系的に理解できた。
- 障害者差別解消法の成立経過と意義、改善すべき観点などについても扱ってほしい。
- 授業中の情報保障支援をどのように実現すれば良いか？教員の負担が大きくなるため、実施の難しさを感じた。
- 情報保障支援とその必要性について知ることができたのは有益でした。
- 本学では支援する学生が集まらず、今後どのように集めていけばよいか課題である。他大学の取組も知りたい。
- 視覚・聴覚以外の障害（発達障害等）についても、このように知れる機会があったら、是非また参加したいと思いました。
- 障がいのある方を一概にまとめたの支援ができないことを学ぶことが出来ました。ゆっくり、はっきり、大きな声で講演いただき、一般の私も大変聞きやすく少しずつ私自身も変えていかなければと思いました。
- 障害別の支援体制を確立する必要性を感じた。
- 自分が学生の頃に比べると支援が格段に充実しているのかと思う。また、社会的にも障害を持っている人に対しての見方や考え方が変化しているのだと思った。

②ワークショップ

【聴覚障害学生支援】

- ノートテイクはある程度の習熟訓練をしないと話すように話し言葉を記録するのは困難であることが分かった。難しさを痛感した。(同様13件)
- ノートテイクの体験方法としてPCを見るというのがあってよかったです。伝言ゲームも何かに使えるようなヒントをいただきました。
- パソコンノートテイクを見るのは初めてでした。とても参考になりました。(同様5件)
- パソコンノートテイクは便利と感じる反面、文章を入力する2人の息が合っていないときちゃんと伝えるのが難しいと思います。また、支援を受ける方もずっと画面を見ていて疲れるだろうし、情報も次々入ってくるので休む余裕もないなと感じました。(同様2件)
- 口話を読み解くのがとても難しかった。(同様4件)
- 「情報の取舍選択は学生がするものであり、できるだけ情報を与えること」といった言葉が印象に残りました。(同様1件)

- 今日参加した我々はゲームとして楽しく取り組んだわけだが、連日の授業をきちんと理解しなければならぬ学生にとっては非常に深刻な問題だと思った。また、PC ノートテイクに興味を持った。何故ならその支援をすることで自分自身の PC の入力も速くなりそうだから。
 - iPod を使った体験ではノイズが入っても多少はきこえるものの、非常に集中しながらきいていないと聞きとれないような状態でした。長時間の集中力を保つのはかなり疲れるなと感じました。
 - 聴覚障害の体験で iPod を使った時は正直、授業放棄したくなった。これがテイクが隣にいる授業ならまだ「一緒に頑張ってみようかな、頼れる人がいるからな」と思えるけど、日常生活の別の場面で似たような状況になると、私なら一人だけ別世界にいるような「もういいや」と思ってしまおうと思った。
 - 授業が聞きとれない学生の困難さの一端を体験することができ、ありがたかったです。
 - 人の聞こえ方がさまざまである現実について、もう少し知ることができればと思った。
 - ノートテイクの場合、支援者が右利きだと障がい者は左にいないとノート中、字が見えないと思った。
 - 支援することが難しいが機器利用した支援を構築したい。
 - スマートフォンなどの音声入力でも代用可能かなと思いました。
 - 伝えること、逆に目で聴くことが本当に難しいと感じました。私も手話やパソコン、手書き等で障がいのある方への支援ができるようにつとめたいと思いました。
 - 何かを諦めなくなる程度や、冒頭の有海先生の話（表紙イラストを描いてくれた学生の話）であったような自信を持ってない程度が、個人差もあれど、健常者より繊細かもしれないと思ったので継続的なケアはやはり必要なと感じた。
- 【視覚障害学生支援】
- 実際にゴーグルをはめて体験できたことがよかったです。一例としてでも、想像ではわからない困難についての理解の一端となりました。（同様 14 件）
 - 視野狭窄の体験が大変でした。貴重な体験をありがとうございました。（同様 4 件）
 - 白濁の体験は想像以上に見えにくい状態でした。どのような支援ができるかもう少し詳しく知りたかったです。（同様 4 件）
 - 「視覚障害」と一口で言っても、その種類によって状態が全く違うということがわかった。奥が深いと言うか、この点を理解することがとても大事だと思った。学生を直接サポートするだけでなく、日常生活でも気をつけていきたい。（同様 1 件）
 - 感じた事は聴覚障害と同じで、我々は今日の研修会の中の十数分、和気藹々と取り組んだが、講義の内容をきちんと把握し、試験も就活も抱えている学生に対しては適切な支援が必要だと思いました。
 - 高齢になれば誰もが弱視になることを心にとめ、弱視でも見やすい情報の提示方法と早くから実践するべきだと思います。

- 不便なことに初めはあせり、その後、ずっと続くここからのあきらめ、慣れの必要性を感じることで、知恵で解決解消しようとするというサイクルでわずかの時間ながら対応しようとするのが体験できたのがいい理解になりました。
- 特徴や程度について考えるきっかけになった。
健常者が文字を目立たせるためにフォントを拡大しても視野が狭い方にとっては視野から文字が外れる意味でむしろ見づらくなってしまふなど、支援に関わるには前提として理解と固定観念にとらわれない柔軟性が大切だということを感じた。
- 職場におそらく弱視かなという方がいるのですが書類の文字の大きさやフォントなど工夫できることがあるのではと思いました。また、入試の際などにも受験生の対応など参考ができることがあるなと思いました。

【問6】その他、ご意見ご要望（運営面、会場、開催時期、テーマ等）

- とても実りのある、有意義な時間をありがとうございました。（同様5件）
- 時間通りにテンポよく進められてよかった。（同様3件）
- 講義よりワークショップの時間を増やした方が良かった。（同様1件）
- 視覚・聴覚だけでなく、心理的障害（障害とは呼ばないかもしれないが）を持つ学生や受験生に対して、どのような支援をされているのか、またはどのような支援の方法があるのか知りたいと思う。例えば、授業中、退出してはいけない状況になると腹痛を起こす、または周囲の人とうまくコミュニケーションが取れず、学生生活に支障をきたす、大学に来られなくなるなど。
- 支援技術にITを使ったものが出てきており、どのようなものを資料だけでわかることが難しいため、紹介していただきたい。
- 日程上、今回のワークショップに参加できなかった方のために、可能であれば、同じ内容でもいいので別日程で開催することもご検討いただきたい。
- ぜひ来年も、この続きを実施していただきたい。
- 学生夏休み中の開催は参加しやすいので、今後も同時期を望みます。私大は9月上旬より後期が始まるので、8月中に開催していただきたいです。

【問7】「障害者高等教育拠点」について、希望する取組や、内容を知りたい取組

- 発達障がいの学生への対応について、注意すべき点や各発達障がいの特徴について知りたい。（同様2件）
- 支援の実例、紹介があれば、具体的な取り組みが見えるのではと思います。（同様1件）
- キャリア関連（学内部署との連携を含め）。学部機関との連携。
- 近くに、聴覚、視覚障害の方がいたとき、災害時の対応方法なども学べるとよい。
- 「遠隔情報保障支援体制」について、回線が安定していないと難しそうだと思います。
- 窓口対応のあり方について学ぶ・考える機会があるといいと思いました。

②「聴覚障害学生の語学教育のイコールアクセスを考える」終了後のアンケート結果

[参加者数 22 名、回答者数 18 名 (回収率 81.8%)]

【問 1】 職名についてお聞かせください。

- ① 教員 10名
- ② 事務系職員 5名
- ③ その他 3名 [支援コーディネーター(2)、大学院生(1)]

【問 2】 現在の所属部署についてお聞かせください。

- ① 障害学生支援に携わる部署 10名
- ② その他 8名
[英語・外国語教育(3)、学内委員会(1)、教務課(1)、無記入(3)]

【問 3】 現在、貴学に障害学生は在籍していますか？

- ① はい 13名
[聴覚(136)、視覚(12)、運動(17)、発達(115)、その他(5)、無記入(3)]
- ② 入学相談を受けている 5名 [聴覚(1)、発達(1)、無記入(3)]
- ③ いいえ (回答なし)
- ④ わからない / 把握していない 3名

※①②には、複数種別の障害学生が在籍している (または入学予定である) 参加者も含まれる。

※在籍する聴覚障害学生数を全員と回答した 2 件 (ろう学校) は在籍数に含まない。

【問 4】 今回の研修会開催を何で知りましたか？ (複数回答あり)

- ① 筑波技術大学ホームページ 2名
- ② 「障害者高等教育拠点」メールマガジン 2名
- ③ メールングリスト (PEPNet-Japan・asagao) 4名
- ④ 開催校からの通知 7名
- ⑤ その他 3名 [deafeng ML (2)、他大学の教員からの情報(1)]

【問 5】 意見・感想 (本シンポジウムの内容について)

- ろう学生の英語教育に関わる様々な立場 (当事者・支援者・教員)、大学の話を聞くことができ、様々な支援の方法があり得ることが知れてよかった。(同様 7 件)
- 軽度難聴で手帳をとれない生徒・学生にとって、英語の技能試験における特別措置がないため、こういったことも含めて情報を引き続き提供してほしい。
- 事例で差別解消法のスタートと浸透に合わせて、「(支援室で決定した) 配慮事項を担当

教員に依頼」から、「配慮事項と一緒に相談することを依頼」に変えたという話は目からウロコでした。言われてみると、そのとおり。担当教員も当事者ということ。

- 高校での支援についても情報があれば知りたいです。
- 同様の問題・課題は視覚障害にあてはまるので、あわせて実施するのもよいかと思いました。
- 情報保障を配置して「終わり」になりがちだが、継続的に支援を振り返り、調整していくことが必要だということであらためて感じた。
- 留学生のテイカーは良い方法だと思うが、リソースのない大学もある。学内テイカーでまかなうというやり方の限界を感じた（地域性も含めて）。

【問 6】意見・要望（運営面、会場、開催時期、テーマ等）

- 会場（都内）、時期等、とてもアクセスしやすく参加しやすかった。（同様 1 件）
- 質疑応答の時間をもう少しとっていただけるとありがたいです。（同様 3 件）
- 毎回大変勉強になっています。

【問 7】利用希望取組・内容を知りたい取組

- より広くこうしたシンポジウムの開催を周知して頂き、地域ごとなど、色々な形で、興味の有無に関わらず参加者を増やして頂くことが大切かと思えます。
- 障害学生の学外実習における支援（情報保障の配置、謝金の負担、受入先との調整等）。

まとめと平成 30 年度の活動に向けて

平成 29 年度は、本事業で主催する FD/SD 研修会を 2 回開催したほか、日本特殊教育学会第 55 回大会において自主シンポジウムを企画し、本事業で取り組んでいる「障害学生のキャリア発達支援」について議論を深めることができた（詳細は「キャリア発達支援」の取組報告に記載する）。

また、平成 28 年度に続き、他大学で開催される公開講座、FD/SD 研修会等への講師を派遣する機会が多くあった。本事業の広報活動の成果でもあると考えているが、研修会の依頼先の大学等から FD/SD 研修会のテーマとしたきっかけを聴取したところ、障害学生への修学支援や必要な配慮について、授業や窓口対応に関わる教職員のほか、全学の教職員で周知することを目的として開催されることも多かった。また、研修会で求められる内容としては、具体的な支援方法・技術に関するテーマが多かったことも、平成 27～28 年度からの変化といえる。

本事業で開催した FD/SD 研修会の参加者アンケート回答においても、概ね好評を得ることができた。また、アンケートからは「他大学の取組・事例を知りたい」という意見も多かったため、事例報告を含めた FD/SD 研修会を企画する必要性を感じた。

平成 28 年度に計画していたように、本事業では初めて関東圏以外の県での FD/SD 研修会を開催することができた。平成 30 年度は、これまでの FD/SD 研修会終了後アンケート等の回答で得られた意見を参考に、今後の FD/SD 研修会の開催地・開催時期・プログラム等を検討する。

このほか、平成 28 年 5 月より毎月 1 回（第三金曜日）に配信している「障害者高等教育拠点」メールマガジンの内容を一部リニューアルした。創刊号以降「プロジェクト・リリースコラム」として、各取組からの事例を含めたアドバイス等を投稿してきたが、障害学生・者支援等に広く関心を持ってもらうことを目的とするコーナーに改め、名称を「プロジェクトコーナー」とした。メールマガジンの内容については、本事業 Web サイトの案内、動画コンテンツ追加案内を行っている。今後も、読者のニーズに応じて拡充を図っていく予定である。

メールマガジンは、これまで本事業で開催してきた FD/SD 研修会の参加者等が中心に登録・配信を行ってきた。平成 29 年度は、障害学生支援を担当する部署の情報共有等を目的として、部署の共有アドレスへ配信先を変更したいとの依頼が多く見られた。これは、窓口となる職員、授業等に関わる教員…という一人ひとりではなく、大学として障害学生支援に取り組んでいるからであることがうかがえる。

また、事業パンフレットの作成・配布や本事業 Web サイトの充実、各ネットワーク等の ML 等の活用など、引き続き広報活動を積極的に行なうことで、事業の周知・利用の促進を図る。

執筆者： 宇都野 康子

キャリア発達支援

1. 取組の目的

卒業後を見据えた障害学生のキャリア発達支援について、主に FD/SD 研修会や講習会の開催等をとおして、具体的なノウハウを各機関へ提供するとともに、他大学の事例等について共有する。また、社会からのニーズを考慮し、障害特性に応じた社会的スキル習得を含め、大学としてのキャリア教育・支援のあり方について情報共有を図る。併せて、他大学で障害学生の修学支援・就職支援に関わる教職員からの相談に対応する。

2. 活動報告

- 1) 日本特殊教育学会 第55回大会 自主シンポジウム企画・実施
- 2) キャリア支援に関する相談対応
- 3) 障害者の就職支援および就労環境整備に関する相談

※開催日時・発表者については、本報告書7ページの「他大学の教職員を対象としたFD/SD 研修会の開催」に記載する。

1) 日本特殊教育学会 第55回大会 自主シンポジウム企画・実施

本企画は、本取組の目的として掲げている「障害特性に応じた社会的スキル習得を含め、大学としてのキャリア教育・支援のあり方」をテーマとして「大学等における障害学生のキャリア発達支援—聴覚・視覚障害学生を中心に—」を実施した。

本報告では、発表者ごとに発表の概要を記載する。

【企画および話題提供1：石原 保志】

企画趣旨・障害学生のキャリア発達に関する話題提供が行われた。文部科学省の報告(2004)によると、キャリアとは、「個人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖および、その過程における自己と働くこととの関係づけや価値付けの累積」と定義されている。キャリア支援とは、単に進路指導や就職支援にとどまるものではなく、社会生活を見据えたトップダウン的視点から、在籍中にこれらの能力・スキルを獲得していく過程と大学からの働きかけについての提案がなされた。

【話題提供2：河野 純大】

本学の聴覚障害学生が学ぶ天久保キャンパスでの2つの事例が報告された。

①障害学生自身の障害認識や地域の障害理解促進を目的とした授業

授業の一環として、聞こえないとはどういうことかを理解してもらうための内容を、プロジェクト形式の授業において聴覚障害学生達で議論し、検討・実施することで、障害啓発能力の育成に繋げている。

②学内アルバイトの実施

社会体験の不足を補うため、本学のオープンキャンパスや学内のプロジェクト等で実施するイベント等のアルバイトを募集する。

①では学生のアイデアや自主性を育むために学生の自主的な取組に委ねている一方で、②ではアルバイト代をもらうことに対する責任について理解させるようにしていることについて報告された。

【話題提供3：宮城 愛美】

視覚障害のある生徒・学生のキャリアに関わる調査結果、および視覚障害者の移動、読み書き等の特性を踏まえた上で、視覚障害学生のキャリア発達におけるキーワードとして「体験」「意思表示」「考察」と、それぞれで見られる課題があげられた。

また、本学での指導・支援や本事業の「視覚障害学生の修学支援」の取組における視覚障害学生支援に関する相談対応をとおした事例についても紹介された。本学の事例では、置かれた環境のなかでも日常的な活動を通して、体験やロールモデルの不足をある程度補える可能性が示唆された。また、他大学の事例では、修学や就職についての本人の希望に対して、必要な情報や周囲からの働きかけについて問題提起があった。

【話題提供4：宇都野 康子】

本事業の「情報保障」の取組における聴覚障害学生支援に関する相談対応をとおした事例を交えた発表が行われた。自身の支援ニーズを把握できていなかった聴覚障害学生が支援を受ける中でのモニタリングや教職員の促しや傾聴から、ニーズの表明および支援の申し出につながった事例が報告された。また、情報保障は「受けるもの」から「依頼するもの・活用するもの」という「支援の主体は聴覚障害学生自身」であることを認識させた事例についても報告された。支援活動は、教職員への報告・連絡・相談が必要であり、障害学生、支援学生双方にとって、よりよい支援を作り上げていく過程を体験するため、障害の有無によらないキャリア発達を促す機会であるとした発表がなされた。

【指定討論：水野 映子】

指定討論では、障害者雇用などについて調査研究を行っている立場から、これまでの調査結果等を踏まえた発表を行った。職場における障害者への理解や配慮については、職場間・

職場内でも差が大きいこと、その状況に対応するためには、就労前に障害学生自身が「体験」を通じて自己や社会・環境について理解すること、自身の障害と配慮ニーズについても表明できることが重要である、などの指摘がなされた。

また、話題提供者へは、さまざまな「体験」の前後で学生の社会・環境に対する認識の変化の有無、周囲への自己説明・配慮要望の目的については、大学でどのように教えているか、学校側から社会に対する働きかけがあるか、卒業後の効果検証やアフターフォローについて質問があった。

2) キャリア支援に関する相談対応

他大学に在籍する聴覚障害学生の指導・支援を担当している教職員からの相談に対応した。

①就職活動に関する相談

文系学部在籍する聴覚障害学生（2年生）が希望している業種には、「障害者雇用枠」がないため、今後の就職活動をどのように指導・支援していくべきかという相談があった。

この相談と同様のケースが、本学の前身である筑波技術短期大学の時にもあったことから、下記のアドバイスを行った。

- ◆本人が希望する業種が明確なのであれば、（本人の希望・意向を踏まえた上で）障害者枠にこだわらず、一般枠で応募してもよいと思う
- ◆面接等に備えて、本人が応募する会社および業種で実現したいことを文章化したものやポートフォリオなどを用意する
- ◆面接時には、コミュニケーション方法などについても言及するとよい

上記3点を聴覚障害学生に伝えるとともに、ポートフォリオ・自己PRの作成については、大学のキャリアサポートの部署との情報共有をはかることについてもアドバイスを行った。

②資格取得を目的とした実習時のコミュニケーション・実習先との調整等に関する相談

学内で開講される授業では情報保障を配置しているが、実習が必須の科目がある学科であることから、コミュニケーション方法等を含めて、実習先の選定や実習中の注意点等について相談があった。

これまでに本学に寄せられた相談実績から、下記のアドバイスを行った。

- ◆「実習先で実習生が担当している事柄や実習先から実習生に与えられている注意事項」「大学から実習先への依頼事項」については、資格取得が目的であること、また授業等の教育目標・到達目標を踏まえて、実習先と大学、当該学生を交えて相談を行う。
- ◆実習先から求められている役割に対して、当該学生が健聴学生とは方法は異なるものの、業務上同じ成果をあげられるような代替の方法を担当の教員と当該学生とで十分に検討し、実習先に提案する。

上記 2 点のほか、実習が必須となっている科目の授業担当教員のほか、学部・学科の教員とも連携して、当該学生・実習先と調整する必要があることを伝えた。

3) 障害者の就職支援および就労環境整備に関する相談

障害者、高齢者のキャリア支援を目的として活動している研究会（他大学教員・研究者計 7 名）の依頼に即して、障害者の就職及び職場適応、キャリアプランニングに関する課題、克服事例等を紹介した。また社会モデルとしての障害と高齢者が抱える社会活動参加の課題の共通点、相違点について、本学教員と研究会メンバーとの間で意見を交換した。

まとめと平成 30 年度の活動に向けて

平成 29 年度は、日本特殊教育学会第 55 回大会において自主シンポジウムを企画・実施した。本シンポジウムにおいて報告された事例や、障害者雇用に関する調査結果等を踏まえ、平成 30 年度以降も同テーマで継続していきたいと考えている。

本取組のテーマとする「キャリア」は、「生涯を見据えた社会や職場への移行」であり、本取組の活動は、社会生活を見据えたスキルの獲得に向けた支援である。それゆえ、本取組のみで活動するだけではなく、本事業内の他の取組とも連携を図り、他大学に提供できるコンテンツの開発を目指す。

また、本事業として講師派遣の依頼を受けている FD/SD 研修会等においても、障害学生の修学支援と併せて本取組のテーマについても扱う。大学在籍中の障害学生支援・キャリア支援について理解を深めてもらうことで、障害学生支援の充実につながることを期待する。

執筆者： 石原 保志 ・ 宇都野 康子

ろう者学教育コンテンツ

1. 取組の目的

「ろう者学」は、聴覚障害学生を対象とするエンパワメント指導としても非常に重要な学問であるものの、一般大学においては指導ノウハウや指導者の不足から講義などの開設が困難とされているのが現状である。そこで、平成 22 年度～平成 26 年度に実施された「聴覚・視覚障害学生のイコールアクセスを保障する教育支援ハブの構築」事業にて「ろう者学」の指導カリキュラム及びコンテンツを制作し、大学の教職員・聴覚障害学生が活用できる電子ライブラリのプラットフォームを開発した。

平成 27～31 年度の事業においては、さらなるコンテンツの充実・強化を図るとともに、キャリア発達支援に係る学内プロジェクトと合同で全国の高等教育機関において聴覚障害学生にキャリア指導を行う教職員が利用できる教材を開発し、本学での試用による改善作業を経て、電子ライブラリを通して各機関とのリソース・シェアリングの可能な環境を整えることを目標とする。[参考：平成 27 年度第 1 回定例会議提出資料 計画書（案）]

平成 27 年度は前事業で開発した電子ライブラリの整備・メンテナンスを行い、必要に応じてリソース（動画等）を制作・追加した。また、学内の他プロジェクトと合同で聴覚障害者のキャリア発達支援に関する教材リソースの検討を行い、平成 28 年度においてこれらのリソースを活用する（1）研修会の実施 3 件、及び（2）学生指導モデル案のウェブサイト公開と、取り組みを進めた。合わせて、本学におけるランチトーク等の実施によって得たネットワークを活かしてのキャリアインタビューのウェブサイト公開も始めた。

平成 29 年度は、リソース・シェアリングを本格的に開始するとして、学生指導モデル案（指導略案・教材・参考文献のセット）のウェブサイト公開と利用促進に力を入れた。

2. 活動報告

本取組の主な活動は以下の通りである。

1. 教育コンテンツの改良・拡充
2. 学生指導モデル案の拡充・利用促進
3. ろう者学ランチトークの開催

1. 教育コンテンツの改良・拡充

①教育コンテンツの改良・利用申込状況

申込方法を FAX から、メールでデータ送付して確認後に、原本を郵送するという流れに

改良した。コンテンツの利用については、高等教育機関ではないが、ろう学校から7校新たに利用申込があり、相談対応し、アカウントを発行した。また、10月28、29日に札幌学院大学で開催された第13回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムにて、コンテンツの紹介、デフリンピック啓発ポスターの紹介を行った。12月22日には、埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園にて自立活動指導略案の紹介、教育コンテンツの活用方法について説明する機会を得た。

月日	大学	人数	利用内容
10月28,29日	札幌学院大学 (第13回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム)	のべ 378名	展示によるコンテンツ紹介
12月22日	大宮ろう学園	70名	コンテンツ紹介
通年	筑波技術大学(学内)	57名	授業での使用

＜3月6日現在の利用申込状況(ろう学校8校)＞

大分県立ろう学校・北海道札幌聾学校・愛媛県立松山聾学校・北海道高等聾学校・栃木県立聾学校(高等部)・長崎県立ろう学校(高等部)・京都府立聾学校(高等部)・宮崎県立都城さくら聴覚特別支援学校(中学部)

②キャリアインタビューページの追加 「私たちのキャリア未来地図」



「私たちのキャリア未来地図」第2回インタビューページの一部

聴覚障害者のキャリア発達支援に関する教材の開発の一環として、社会で活躍するろう社会人にこれまでの経験、ろう者ならでの職場での工夫方法やキャリアに対する価値観などをインタビューし、その内容をHPに掲載した。HPに掲載することにより、多くの人々に読んで頂く、知って頂くことを目的とし、大学生にとっても先輩たちはどのように、そしてどういう思いで自らのキャリアを切り拓いてきたのか、働く自己像を描くためのヒントを得てもらうことを狙いとしている。これからも定期的にインタビューを掲載していく予定である。昨年度の第1回(岩山誠さん)に引き続き、今年度は第2回として、若林亮さん(法テラス法律事務所 常勤弁護士)にご協

力いただき、「ロールモデルを追いかけて」のテーマで前職の新聞社での経験、その後に弁護士になるまでの経験、弁護士の仕事などについてお話しいただいた。その中でも、手話通訳士とともに行動してどのようにお仕事をなされているかについて詳しく触れていただき、大変貴重なインタビュー資料となった。さらに、第3回は、川俣郁美さん(栃木県聴覚障害者協会青年部所属)に、「米国留学から考えるキャリア～映画出演を通して～」のテーマで米国の大学留学から帰国後の生活と仕事、映画「段また段を成して」のナレーションを担

当した経験を通して考えたこととお話しいただいた。川俣さんは生まれ育った地域での人の繋がりを大切にしながらも自分の夢に向かって奔走されていて、今の時期、就職活動しながらキャリアを考える若者たちにとっては、非常に身近な内容となったのではないかと思う。こちらも今後のキャリア開発の支援に繋がる貴重なインタビュー資料となった。

・岩山誠氏

「ろうの子どもたちがろう者であっても自身をもって堂々と生きていける社会を」:

<http://www.deafstudies.jp/info/interview0001.html>

(H29.4/1~H30.3/7 アクセス数: 583)

・若林亮氏「ロールモデルを追いかけて」:

<http://www.deafstudies.jp/info/interview0002.html>

(H29.6/1~H30.3/7 アクセス数: 565)

・川俣郁美氏「米国留学から考えたキャリア~映画出演を通して~」:

<http://www.deafstudies.jp/info/interview0003.html>

(H30.3/6~H30.3/7 アクセス数: 281)

③デフリンピック啓発資料の作成

昨年7月末に第23回夏季デフリンピック競技大会がトルコ・サムスンで開かれた。本学から在学生、卒業生が数名出場したことで、その紹介を含め、大会の全体紹介、様子についてポスターを作成することで、国内では認知度が低いとされているデフリンピック競技大会の啓発を行った。

さらに、本学大学院1年で陸上競技男子4×100mリレーのメンバーとして金メダルを獲得した設楽明寿選手、本学4期生で女子バレーボールチームのキャプテンとして活躍し、金メダルを獲得した宇賀耶早紀選手にそれぞれインタビューをし、その内容をHPにて公開した。

・設楽明寿選手インタビューページ:

<http://www.deafstudies.jp/info/news0114.html>

(H29.9/1~H30.3/7 アクセス数: 1,202)

・宇賀耶早紀選手インタビューページ:

<http://www.deafstudies.jp/info/news0115.html>

(H29.9/1~H30.3/7 アクセス数: 1,231)



デフリンピック啓発ポスターの一部

2. 学生指導モデル案の拡充・利用促進

①「デフコミュニティと社会参加」指導案の公開サイトの作成

本学の産業技術学部で学ぶ聴覚障害学生を対象に提供されている「デフコミュニティと社会参加」という授業科目の全15回中大杉教授が担当する7回分を公開した。聴覚特別支援学校における自立活動の指導や高等教育機関での聴覚障害学生への個別指導に活用していただけるようにという目的のもとである。

<http://www.deafstudies.jp/info/dcoss-index.html>

(H29.9/1~H30.3/7 アクセス数：640)

②聾学校（聴覚特別支援学校）を対象とした自立活動の学習指導モデル案サイトの拡充

昨年度（5個）に引き続き、今年度は指導略案を新たに14個追加した。さらに、「社会」「教育」「テクノロジー」の3つのテーマが新しく追加され、対象者の幅も高等部だけでなく、中学部まで広がったため、見やすく利用しやすいようにページのレイアウトを改良した。

<http://www.deafstudies.jp/info/dcoss-index.html>

(H29.4/1~H30.3/7 アクセス数：2,789)

③利用促進

第13回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムにて展示されたパネルをHPにも公開して、利用促進を図った。

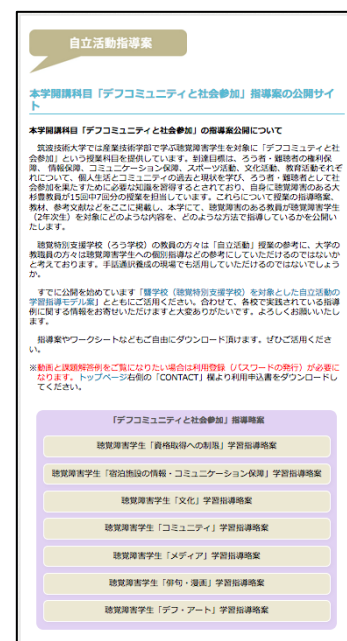
<http://www.deafstudies.jp/info/res0007.html>

3. ろう者学ランチトークの開催

ろう者学の啓発、聴覚障害学生に必要なロールモデルの検討、そして活躍している社会人などと本学学生が交流する機会を設けることを目的として、ろう者学ランチトークを定期的に開催した。今年度は合計5回実施し、のべ参加者は地域の方々も含めて、195名であった（昨年度は計11回、のべ448名）。今年度は昨年度より実施回数が半減したが、聾学校のろう教員によるろう教育のお話に加えて、フィリピン、オランダ、アメリカのそれぞれの世界で活動するろう者による自身のキャリアやそれぞれの国の現状、ろう教育、手話についてお話いただき、昨年度とはまた異なる国際色溢れる内容となった。また、ランチトークの内容をろう者学教育コンテンツ開発プロジェクトのウェブサイトに掲載することによりろう者学の啓発を推進した。

http://www.deafstudies.jp/info/news_index.html

(H29.4/1~H30.3/7 アクセス数：1,843)



「デフコミュニティと社会参加」公開ページの一部

平成 29 年度ろう者学ランチトーク実施内容		
第1回	4月24日(月)	品田千紘氏（埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園教諭） 「技大生活を振り返って～教職とバドミントン～」
第2回	5月11日(木)	クリストファー・アモモンボン氏（フィリピン出身、ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業 18 期生） 「ラブラブとは何か？」
第3回	5月16日(火)	ウォータ・ティールン氏（オランダ出身、Google Japan 勤務） 「IT 企業に勤めるオランダ人ろう者のキャリア」
第4回	6月19日(月)	尾田将史氏（鳥取県立鳥取聾学校教諭） 「12 年間の教員生活を通して、私が感じた事は何か。」
第5回	6月26日(月)	ジョセフ・デービス氏（アメリカ出身、オーロニ大学 ASL 講師） 「生い立ちとアメリカ手話」

執筆者： 門脇 翠

情報保障

1. 取組の目的

近年、高等教育機関に進学する聴覚障害者数は増加傾向にある。平成 17 年度から実施されている日本学生支援機構の「障害のある学生の修学支援に関する実態調査」によると、平成 28 年度の調査では全国の高等教育機関約 550 校に 1838 人の聴覚障害学生が在籍していることが報告されている。そのうち、半数近くの高等教育機関で文字による情報保障支援が行われている。（日本学生支援機構：平成 28 年度大学、短期大学および高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査結果報告書）。また、聴覚障害以外の障害学生支援としても文字による支援が実施されていることが報告されており、今後もニーズが高まることが予想される。

聴覚障害学生が受講する講義では、ほかの学生と同等の情報を受け取ることができるように情報保障が行われる。この情報保障とは、場を共有するすべての人が「同時に・同質の・同量の」情報を得て、その場に参加できるようにするための活動のことをいう。聴覚障害学生に対する情報保障のうち、多くの大学で用いられているのが手書きのノートテイクもしくはパソコンを用いて行われるパソコンノートテイク（以下、「PC ノートテイク」）である。PC ノートテイクとは、パソコンを用いて教員の発話内容を入力し、聴覚障害学生に提示する方法である。

本取組では、聴覚障害学生支援の体制の充実を目指し、他大学で開催された PC ノートテイク講習会や研修会への講師派遣を行った。講習会では、PC ノートテイクを基礎から学び、聴覚障害学生のサポートができる支援スキルをもつ人材の養成を目的としてカリキュラムの作成を行った。

また、本取組では、平成 28 年度までに計 8 講座を開講し、本学で PC ノートテイクを行う人材も養成した。平成 29 年度は、現在活動中の PC ノートテイカーのスキルアップを目指し、メーリングリスト（以下「ML」）等を活用した振り返り等で、課題の抽出を行った。これらの課題等を本取組の主な目的である全国の高等教育機関で開催する PC ノートテイク講習会等のカリキュラムにも反映させることで、短時間の講座でも受講生が効率よく習得できるような教材作成を行った。

本取組では、PC ノートテイクに関わらず、聴覚障害学生支援に関する相談に対応しており、PC ノートテイクの導入に関するハード、ソフト両面からのアドバイスを提供したほか、新年度に入学する予定の聴覚障害学生の受け入れに伴う相談に対応した。

2. 活動報告

1) 他大学における PC ノートテイク講習会等への講師派遣および相談対応

- ①PC ノートテイク講習会への講師派遣
- ②PC ノートテイク・スキルアップ講習会への講師派遣
- ②PC ノートテイク導入、聴覚障害学生支援に関する相談対応

2) 文字による遠隔情報保障技術支援者養成

- ①他大学における文字による遠隔情報保障実施に関する相談対応
- ②他大学で開講された授業における文字による遠隔情報保障支援の実施

3) 他大学で開催された FD/SD 研修会等への講師派遣

- ①聴覚障害学生の指導を行う教員を対象とした FD 研修会への講師派遣

4) 学内における PC ノートテイクスキルアップに向けた取組

- ①PC ノートテイクのスキルアップを目指した活動
(本学で開講された講義における情報保障支援・講義支援終了後の振り返り・課題抽出)

6) その他

本取組で蓄積されたノウハウをもとに、短期間で一定のスキルや知識を得るために、他大学で開催する PC ノートテイク講習会のカリキュラム作成に反映した。

1) 他大学における PC ノートテイク講習会等への講師派遣および相談対応

- ①他大学における PC ノートテイク講習会等への講師派遣 担当：宇都野

他大学からの依頼に応じて、PC ノートテイクで支援を行う学生を養成する目的で開催された PC ノートテイク講習会への講師を派遣した。指導を実施するにあたり、依頼のあった大学の担当者と実施時間や回数、受講者情報

(初心者のみ or 経験者が含まれる、等)に合わせてカリキュラムを検討した。PC ノートテイク講習会への講師派遣の際には、講習会の時間や開催校で準備可能な機材を確認するとともに、講習会終了後の活動の目標等についてヒアリングを行った。なるべく実施時間内で PC ノートテイクの活動に必要な基礎的な技術を習得できるように指導案を作成し、講習会前に担当者と確認を行うこととし



写真：他大学で開催した PC ノートテイク講習会の様子

た。講習会の場には、利用する聴覚障害学生のニーズの把握のため、手書きやPC ノートテイクなどの情報保障を利用している学生（聴覚障害学生）に同席を依頼し、利用学生本人が見やすい字幕（フォントサイズ、色等）や、提示される字幕に関する意見（速度や誤字の修正等）、感想を發表してもらうことで、受講生の情報保障や支援に関する意識の向上を目指した。

そのほか、平成 28 年度から引き続き受講生 2 名が入力している状況をスクリーン等に提示し、入力していない学生は音声教材が聞こえない状態(iPod でホワイトノイズを聞く)で、提示される字幕から情報を取得する利用者体験を取り入れている(図：1-1、1-2)。講習会の時間やパソコンの接続状況にもよるが、受講人数が多い場合には、4~6 人のグループ分けをして、入力ペアと利用者体験ペア、6 人グループの場合には音声聞きながら入力状況を確認するペアも設定し、情報保障（字幕に提示される内容やタイミング、一度に提示される文字の量など）に関する利用学生の立場で、提示される情報について考える機会とした。「講師が何かを話しているが、字幕に情報が提示されない」という体験をとおして、受講生からは「いかに速く字幕に情報を伝えるか」の必要性を理解してもらうことができた。

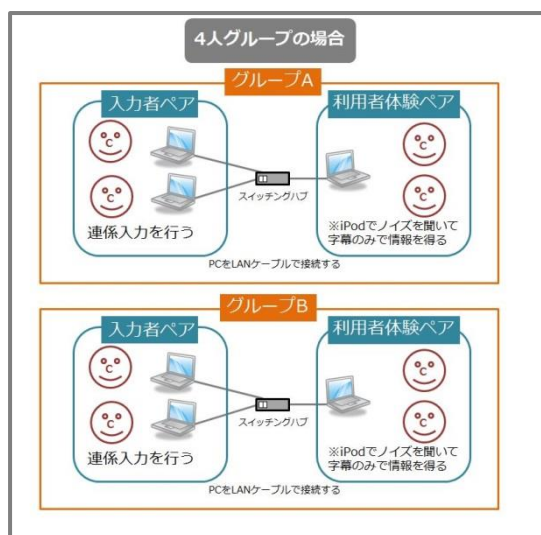


図 1-1：利用者体験を取り入れた 4 人グループの例

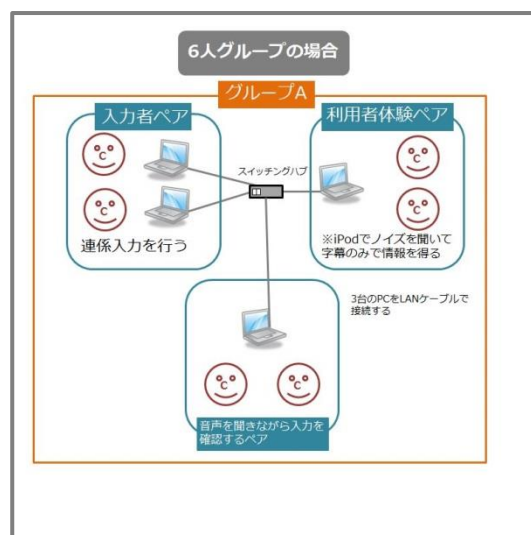


図 1-2：利用者体験を取り入れた 6 人グループの例

受講生が少人数の場合には、講師と受講生の一人がペアとなって入力を行った。入力している様子分かるように、入力状況は教室前方のスクリーンもしくはホワイトボードに提示した(図：2)。PC ノートテイクの初心者同士には「タイピングスキルが合わないため、入力・削除を繰り返してしまうために、話者の話に追いつけず情報を聞き落としてしまう」といったストレスを感じることもある。こういったストレスがない入力を体験してもらうことで、さらに PC ノートテイクに興味を持ってもらうことを目的とした。また、入力する担当の学生にとっては、熟練した入力者と関係入力を行うことで、入力を始めるタイミングをつかむことができる。入力を担当していない学生は、熟練者の入力によるフォローの様子

を見ることで、自分がどのような入力を行えばペアがスムーズに入力できるようになるかを確認できる。

これは、平成 28 年度に講師を派遣した PC ノートテイク講習会を受講した学生が終了後のアンケートに記載した「連係入力がスムーズにできているときに楽しそうだった」という感想を参考にして、平成 29 年度の講習会から取り入れている。ともに初心者の受講生同士のペアのみで連係入力をした場合には、互いにタイピングに余裕がないことが多い。講習会内の連係入力の時間のあとに聞いてみると、「（連係入力の）タイミングが合わせられないので、情報保障としての役割を果たせていない気がする」というような感想が多いため、受講生に「PC ノートテイクができた」体験をしてもらうことを目的として、この方法を取り入れた。講習会終了後の受講生アンケートには「スムーズな連係入力を体験できたことで、受講生同士のペアのときにも入力のタイミングをはかれるようになった」という感想が記載されていた。また、講習会をコーディネートした職員からは「パソコンノートテイクの成功体験・可能性を実感する体験となった」というコメントをいただいた。

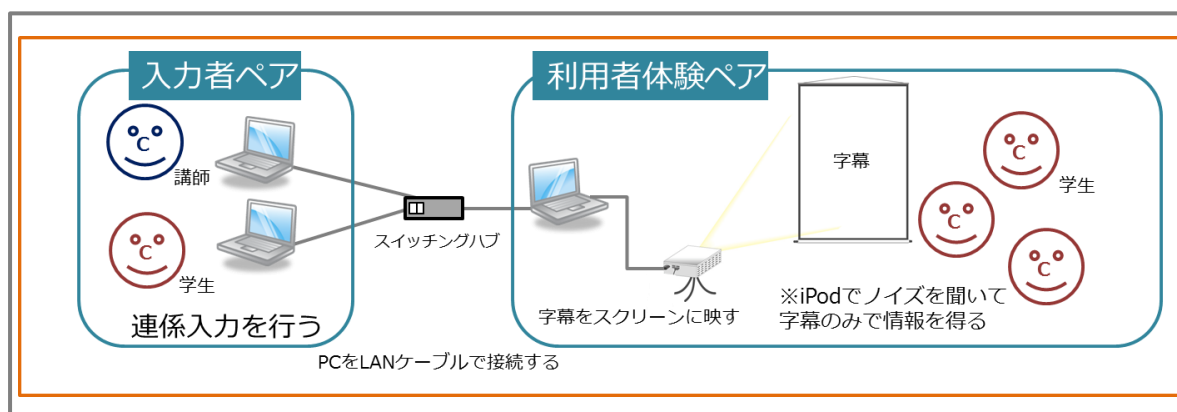


図 2：講師とペアで入力を行う際の接続・表示方法

初心者を対象とした PC ノートテイク講習会には、すでに支援活動をしている学生にアシスタントとして同席を依頼した。講習会の中では PC 操作のフォロー等を担うほか、受講生の入力についてコメントをもらった。また、PC ノートテイクの活動について説明をする時間を設け、支援活動をとおして感じたことについて発表してもらった。

②PC ノートテイク・スキルアップ講習会への講師派遣

担当：宇都野

支援回数（担当したコマ数）が増え、IPtalk を使用した連係入力に慣れてきた学生を対象とした講習会へ講師を派遣した。当該大学の職員をとおして、事前に受講予定の支援学生に、質問（IPtalk の機能、トラブルシューティング等）や PC ノートテイク担当時に困難だと感じた場面のとりまとめを依頼したところ、グループディスカッションの際の PC ノートテイクを含めた情報保障に困難を感じたという意見が多く見られた。このため、スキルアップ

講習会では、グループディスカッションを取り入れた。6人のグループのうち、1人がiPodでホワイトノイズを聞きながらグループディスカッションに参加する。手書きのノートテイクを実施するかどうかについては、各グループの気づきに任せた。終了後、聞こえない体験をした学生の意見として挙げた「グループディスカッション時に必要な情報（発話者）」「議論の方向性が分かりにくい」「自分以外のメンバーが笑っている（困っている）理由が分からない」「発言しにくい」という意見を受講生全員で共有した。この体験をもとにして、グループディスカッション時に必要な情報（発話者や議論の方向性を伝える方法等）を、今後のグループディスカッションが実施される授業で実践していくかを話し合った。

また、基礎的な内容の講座では扱わないIPtalkの機能や、支援学生が使用するノートPCへの単語登録（MicrosoftIME）の方法についても扱った。事前に聴取した困難だと感じる場面として、テキスト、配布資料、授業担当教員が示すパワーポイントなどを読み上げている時の表示が難しいという意見があったため、視覚誘導の表示方法についても扱った。

このほか、連係入力の状況（つまづきにどのように対応しているか）、表出された情報（話しことばから書きことばへの変換）の比較を目的として、2ペアの入力状況をデオカメラに撮影し、入力後に受講生全員で撮影した動画を確認した。撮影方法は、ビデオカメラのほか表示用のパソコン2台を用意し、それぞれ2ペアが入力しているパソコンとLANケーブルを接続してIPtalkで入力している様子を撮影した（図3）。実施の際には、「2ペアの入力の比較を行うが、どちらが正解ということではなく、それぞれのペアでの入力が間に合わなくなってきたときの対処方法や入力者同士でのフォローなどを見ること」の注意を与えた。

撮影終了後の動画確認の際には、入力していた学生からのコメント（どうしてこの対応をしたのか？）を聞きながら再生を行った。講習会終了後の受講生からは「同じ話を聞きながら入力していても、それぞれのペアの話しことばから書きことばへの変換方法などが異なり、どちらがより伝わる情報になるのか考えることができた」「ペアが躓いているときのフォローを見ることができたので、参考にしたい」という感想があった。

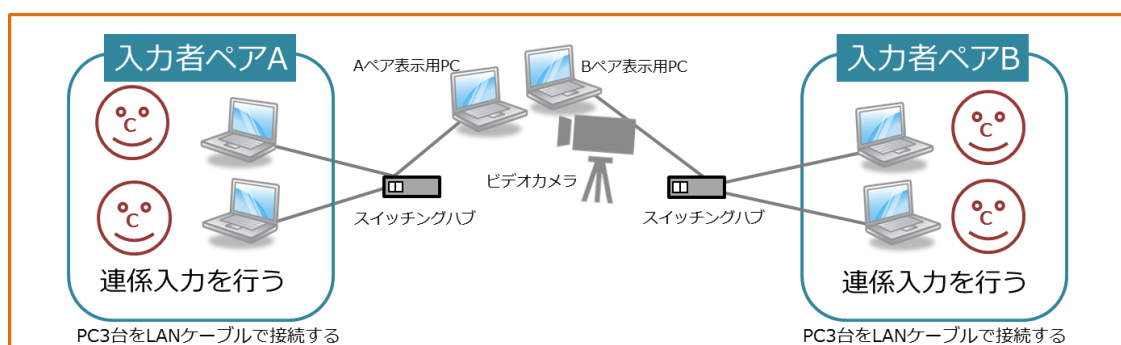


図3：2ペアの入力比較のためのノートPC等接続・準備方法

平成 29 年度 他大学における PC ノートテイク講習会等への講師派遣実績

(15 件、受講生のべ 154 名、7 大学)

同年度に 2~5 回程度の講習会を開催する大学もあったほか、支援学生のスキルアップ講習会へも講師を派遣した。

	実施日	参加者等	備考	担当者
1	平成 29 年 4 月	受講者 10 名 (うち利用学生 1 名)		宇都野
2	平成 29 年 5 月	受講者 10 名 (うち利用学生 1 名)		宇都野
3	平成 29 年 5 月	受講者 9 名 (うち利用学生 1 名)	2 と同大学	宇都野
4	平成 29 年 6 月	受講者 10 名 (うち利用学生 1 名)	2 と同大学	宇都野
5	平成 29 年 6 月	受講者 11 名 (うち利用学生 1 名)		宇都野
6	平成 29 年 6 月	受講者 15 名 (うち利用学生 1 名)		宇都野
7	平成 29 年 6 月	受講者 26 名		宇都野
8	平成 29 年 9 月	受講生 11 名 (うち利用学生 1 名)		宇都野
9	平成 29 年 9 月	受講生 12 名		宇都野
10	平成 29 年 11 月	受講生 7 名 (うち利用学生 1 名)	5 と同大学	宇都野
11	平成 29 年 11 月	受講生 15 名 (うち利用学生 1 名)	2 と同大学	宇都野
12	平成 29 年 12 月	受講生 6 名	2 と同大学 (別キャンパス)	宇都野
13	平成 29 年 12 月	受講生 8 名 (うち利用学生 1 名)		宇都野
14	平成 30 年 2 月	受講生 4 名		宇都野
15	平成 30 年 3 月 (予定)			宇都野

受講生の感想 （抜粋）

- この PC ノートテイク研修会を通じて、ノートテイクの難しさ、楽しさを知ることができました。
- 実際に入力をしてみて大変だなと思った一方、やりがいを感じられて、楽しいなと思えた時ありました。
- 手書きノートテイクと比べて、二人で入力していく連係入力は安心感があつた。
- 基本のタイピングとテイクのパートナーへの配慮が重要だと思った。
- 難しいと思っていた変換についてカナ変換が有効だという事など、ためになることが聞けてよかった。
- PC ノートテイクの連係入力体験が楽しかったです。講師の先生とペアになって入力をしたときに、「ペアの人が打ちやすい入り方だね」と誉めて下さったのも心に残りました。
- 疑似体験ではありますが、聴覚障害の方の聞こえにくさを体験してみて、ノートテイクがないと、授業で話されていることが分かりにくいだらうなと感じました。利用する方が、少しでもわかりやすい文章にできるように工夫していくことを心掛けたいと思います。

【スキルアップ講習会】

- グループディスカッションでは、自分は聞こえない状態でディスカッションに参加したことで、どのような配慮が必要か、どのような配慮が嬉しいかを体感し知ることができました。
- F キーやC t r l + E n t など、あまり使いこなせていなかったなので、勉強になった。ノートパソコンの単語登録機能など知らなかったが、これから有効活用していきたい。
- 視覚誘導の方法に関して、自分のテイクでもより分かりやすく情報を提示していきたいと感じているので、次回のテイクから実践していこうと思います。



写真：他大学で開催した PC ノートテイク講習会の様子

③PC ノートテイク導入、聴覚障害学生支援に関する相談対応 **担当：宇都野**

平成 28 年度に引き続き、PC ノートテイクを初めて導入する大学へ、講座運用や基本的な必要機材等に関する相談対応を行った。また、すでに PC ノートテイクのサポート活動をしている学生がいる場合には、PC ノートテイク講習会にアシスタントを兼ねて出席を依頼した。

1 年の間に数回の PC ノートテイク講習会を開催し、継続的に支援学生の増員を目指している大学も多い。こういった大学とは、学生が参加しやすい曜日・時間帯に合わせて講習会日時を決定するなど、依頼のあった大学の要望に対して、可能な限り対応を行った。内容や講習会運用や支援学生の養成に関する相談に対応したほか、講義における情報保障（PC ノートテイク）の実践に関連した相談以外にも、就職活動や進路、学外実習に関する相談も多く寄せられるようになったことから、本事業の取組間で連携を図りアドバイスを行った。

平成 28 年度までに講師を派遣した大学からの「PC ノートテイクの活動を行っている学生のスキルアップ」に関する相談に対応した。スキルアップ講習会の内容や進め方等についてアドバイスを行った。

また、新年度に入学することが決定した聴覚障害学生の支援に関する相談に対応した。聞こえの程度やこれまでの教育歴（一般校 or ろう学校）や進学する学部・学科についても聴取を行い、アドバイスを行った。

2) 文字による遠隔情報保障技術支援者養成

①他大学における文字による遠隔情報保障実施に向けた支援・相談対応

担当：三好、宇都野

複数のキャンパスがある大学の場合、全てのキャンパスに PC ノートテイクがいるとは限らないため、キャンパス間の遠隔情報保障実施を検討している大学も増えてきた。この方法での遠隔情報保障が円滑にスタートできるように、必要な機材や学内の担当者（情報システム等の部署）との連携についてアドバイスを行った。

②他大学で開講された授業における文字による遠隔情報保障支援の実施

担当：宇都野

上記①で相談に対応した大学で開講された授業において、実施に向けた取組の一環として遠隔情報保障を実施した（1 コマ）。使用機材に関しては、本事業で有しているタブレット等を貸与した。文字による遠隔情報保障を実施する際に必要となる音声取得環境や教室環境等については、事前に他大学の教職員と打合せを行った。

3) 他大学で開催された FD/SD 研修会等への講師派遣

①聴覚障害学生の指導を行う教員を対象とした FD 研修会

担当：宇都野、河野

他大学に在籍している聴覚障害のある学生に対する支援および授業実施時の配慮に関する FD 研修会へ講師を派遣した。講師を派遣した講習会のうち 1 件については、聴覚障害学生への情報保障支援だけでなく、「授業実施時の配慮」についても依頼があったため、本学産業技術学部の河野准教授と対応した。

また、初めて聴覚障害のある学生を受け入れる学科が開催する FD 研修会では、依頼先の職員から、受け入れる学科について「授業の中でのグループディスカッション等が多いこと」「専門科目では学外実習も多いこと」等、事前に聴取を行い、他大学の事例等を含めて授業実施の配慮、支援方法の決定に関する流れ等について説明を行った。

4) PC ノートテイカーのスキルアップを目指した活動

担当：宇都野、PC ノートテイカー

現在、平成 23 年度～26 年度までに実施していた前事業および平成 27～28 年度において養成した PC ノートテイカー（10 名※平成 30 年 3 月時点）は、本学で開講されている講義（教養科目、専門科目）の情報保障支援を担当した。平成 23 年以降、毎年度「PC ノートテイカー養成講座(初心者対象)」を開講して PC ノートテイカーを養成してきたが、平成 29 年度は新たな支援者の養成は行わず、継続して活動している PC ノートテイカー、チーム全体のスキルアップを目指した。

PC ノートテイカーのスキルアップ・情報共有（次回への引き継ぎ等）を目指して、講義支援終了後にメーリングリスト（以下「ML」）を活用して個人での振り返りや、チームで PC ノートテイクに取り組む上での課題を抽出・解決方法を検討した。平成 29 年度より、個人の振り返りと共有事項を分けて記載するように変更した。

ML は実施日・科目ごとに投稿することで、次回の担当者を含め、とりまとめの利便性にも考慮した。

記載する項目は下記の 4 点で、支援終了後 3 日以内に投稿した。

- (1) 担当した回の授業に出てきたキーワード
- (2) 事前準備・支援中の入力で工夫したところと結果
- (3) 今後の改善点
- (4) 共有事項（小テストの実施や配付資料の進捗状況）

また、平成 28 年度から導入した「リーダー制」を継続し、PC ノートテイカーが主体的に取り組む環境の提供を目指した。リーダーは、支援準備や打合せの中心となり、全員が交代で担当するように調整した。

学内で開講される授業の情報保障支援を担当する際に、授業担当教員の許可を得て、授業の全景および PC ノートテイクの入力状況がわかる PC 画面の撮影を行っている。PC ノー

トテイク個人だけではなく、チーム全体としての対応方法を検討するために活用しており、今後は表出された文章の内容や質（発話情報との比較等）を行っていく。

情報保障支援を担当した科目

前 期		後 期	
修学基礎 A	1 コマ	社会学	15 コマ
歴史学	15 コマ	エコ環境システム	15 コマ (1) (※4)
知能ロボット工学	15 コマ (2) (※3)	日本国憲法	3 コマ×5 回=15 コマ
品質管理論	15 コマ	熱・空気環境工学	2 コマ (2) (※5)
デザイン学特別講義	15 コマ		
合計	61 コマ (2)	合計	47 コマ (3)

※3～5：() 内の数字は研究所見学のため、遠隔情報保障支援を実施したコマ数

6) その他

第 13 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム 担当：宇都野

【教職員対象企画】「教職員による聴覚障害学生支援実践発表 2017」における

ポスター発表

本取組の「PC ノートテイクー養成」について、ポスター発表を行った。今回は、講師として担当した、他大学で開催されたパソコンノートテイク講習会についてタイムスケジュールやカリキュラム、講習会で活用しているソフトウェアなどを紹介したほか、PC ノートテイク講習会終了後の受講生の感想等も紹介した。

まとめと平成 30 年度の活動に向けて

本取組では、PC ノートテイクの講習会への講師派遣、相談対応に取り組んできた。他大学で開催される PC ノートテイク講習会等へ講師派遣を行う際には、依頼先の職員から利用学生のニーズ、入学前の場合には、コミュニケーション方法や聴力、面談等の結果なども聴取し、情報保障を利用する学生の支援ニーズに即した情報保障が提供できるような指導案を作成し、講習会を実施した。特に、平成 29 年度は、平成 28 年度までの PC ノートテイク講習会の受講生のアンケートの感想等を参考にして、講師とペアで入力をする時間を設けた。受講した学生からも好評だったため、今後の PC ノートテイク講習会でも導入していきたい。

また、継続して PC ノートテイク講習会を開催している大学からは、在籍している聴覚障害学生に関する様々な相談が寄せられるようになった。PC ノートテイク以外にも、就職活動、実習形式の授業の情報保障に関する相談などにも対応した。初心者を対象とした PC ノートテイク講習会開催時には本事業から講師を派遣し、その後は学内の教職員で養成・スキルアップに向けた取組を行っている大学からは、スキルアップ講習会の内容等について相談があった。本学で養成している PC ノートテイカーのスキルアップ講習会等の内容を紹介しながら、アドバイスをを行った。

平成 29 年度は、平成 23 年度から毎年度開講してきた、初心者を対象とした「PC ノートテイカー養成講座」は開講せず、継続して活動している PC ノートテイカーのスキルの向上を目指した。

引き続き平成 30 年度も、他大学で開催される PC ノートテイク講習会からの依頼に応じ、講師派遣を行うとともに、講習会終了後のアンケートに記載された受講生の感想などを踏まえ、講習会の内容・教材等を検討する。

執筆： 宇都野 康子

体育・スポーツ

1. 取組の目的

全国の高等教育機関に在籍する聴覚・視覚障害学生の体育・スポーツ活動に関する教育支援の充実に資することを目的とする。

上記の目的を達するため、以下の項目に重点を置いて事業を展開する。

- 1) 聴覚・視覚障害学生（者）の体育・スポーツ活動に関する情報の収集および提供
- 2) 聴覚・視覚障害者スポーツに関する講習会の開催および講師派遣
- 3) 聴覚・視覚障害学生の体育授業に関する相談・助言・支援
- 4) アダプテッド・スポーツ実践の場の提供

2. 活動報告

事業計画に基づき、以下の4項目を実施した

- 1) 聴覚・視覚障害学生（者）の体育・スポーツ活動に関する情報の収集および提供

聴覚・視覚障害者スポーツに関する情報の提供として、本事業で制作した映像資料（写真1）である、聴覚障害者スポーツ DVD「トップアスリートを目指して～聴覚障がい者スポーツの紹介」ならびに、視覚障害者スポーツDVD「広がる、世界へ！～視覚障害者スポーツの紹介」を全国の大学体育教員や、障害学生支援に携わる教職員を対象に配付した。また、体育関係や視覚障害関係の学会において、本事業の取り組みの紹介と利用事例の報告を目的とした発表を実施した。



(写真1：DVD)



日時	対象・件数	内容
通年	全国の大学体育教員・障害学生支援担当職員など	聴覚障害者スポーツDVD「トップアスリートを目指して～聴覚障がい者スポーツの紹介」、視覚障害者スポーツDVD「広がる、世界へ！～視覚障害者スポーツの紹介」の送付。 【担当：香田・天野・中島・向後・小森園】
8月29日	第10回FD/SD研修会	山形大学にて行われた、本研修会における資料として、全参加者にリーフレットを配布。 【担当：天野】
9月8日～10日	日本体育学会	日本体育学会第68回大会において拠点事業の実践内容を学会発表。 【担当：香田・中島・向後】
1月4日	大学スキー研究総会シンポジウム (60名)	大学スキー研究総会シンポジウムにて、「障害学生に対するスノースポーツの指導・実践例を発表」。 【担当：向後・天野】

2) 聴覚・視覚障害者スポーツに関する講習会の開催および講師派遣

聴覚・視覚障害者スポーツに関する講習会の開催や講師派遣として、大学体育教員を対象としたFD研修会への講師派遣、将来の指導者や支援者となる体育や教育・福祉などを専攻する学生を対象とした障害者スポーツに関する講習、一般の大学教職員や学生を対象とした聴覚・視覚障害者スポーツ体験を目的とした講習会等の開催ならびに講師派遣を実施した(写真2)。



(写真2)

日時	対象・件数	内容
4月20日	筑波大学 (15名・1大学)	筑波大学体育専門学群ならびに筑波大学大学院人間総合科学研究科開講授業(アダプテッド体育・スポーツ学演習Ⅰ)での視覚障害者スポーツに関する講義と実習への講師派遣。 テーマ：視覚障害について考える。サウンドテーブルテニス 【担当：天野】
4月27日	筑波大学 (15名・1大学)	筑波大学体育専門学群ならびに筑波大学大学院人間総合科学研究科授業(アダプテッド体育・スポーツ学演習Ⅰ)での視覚障害者スポーツに関する講義と実習への講師派遣。 テーマ：フロアバレーボール 【担当：天野・香田】
6月28日	中央学院大学 (35名・1大学)	中央学院大学法学部スポーツシステムコース3年生授業での視覚障害者スポーツに関する講義と実習への講師派遣。 テーマ：視覚障害者スポーツとその工夫に触れる(ブラインドサッカー、ブラインドテニス体験とその他種目の紹介) 【担当：天野】
6月28日	筑波大学 (50名・1大学)	筑波大学体育系主催の「なないろスポーツフェスタ」の中で実施される「なないろ駅伝」での視覚障害者ランナーへの伴走について講義した。 【担当：天野】

8月2日	了徳寺大学 (70名・1大学)	了徳寺大学健康科学部整復医療トレーナー学科2年生授業での聴覚障害者スポーツに関する講義への講師派遣。 テーマ：聴覚障害者スポーツから学ぶ伝える力 【担当：中島】
10月2日	帝京平成大学 (50名・1大学)	帝京平成大学健康科学部整復医療トレーナー学科1年生授業での聴覚障害者スポーツに関する講義への講師派遣。 テーマ：聴覚障害者スポーツから学ぶ伝える力 【担当：中島】
12月18日	了徳寺大学 (67名・1大学)	了徳寺大学健康科学部整復医療トレーナー学科1年生授業での聴覚障害者スポーツに関する講義への講師派遣。 テーマ：障害者スポーツにおけるトレーナーの役割 【担当：中島】
2月1日	筑波大学 (162名・教員2名・TA8名・1大学)	筑波大学開校授業（アダプテッド・スポーツ科学）で実施する授業内容・手順に関する相談および助言。 対象種目：ゴールボール 【担当：天野】

3) 聴覚・視覚障害学生の体育授業に関する相談・助言・支援

体育授業の相談・助言として依頼元大学の障害学生支援体制や体育授業の内容や指導体制・体育施設に合わせた支援方法の提案、新年度に障害学生の入学を予定している大学での支援体制構築や、聴覚・視覚障害者に対する運動指導時における一般的な配慮に関する相談と助言の実施を計画した。

今年度、聴覚・視覚障害学生の体育授業に関する相談・支援についての依頼はなかった。

4) アダプテッド・スポーツ実践の場の提供

本取組の実施・運営にも携わる立場として、技術補佐員（アダプテッド・スポーツ推進担当）を任用した。当補佐員は本取組の実施・運営に携わり、本学での授業や他大学での事業、各種イベントの利活用により、聴覚・視覚障害者スポーツを中心としたアダプテッド・スポーツ実践・実習を通して、この分野の資質向上を図った。

日時	対象・件数	内容
通年	筑波技術大学	本取組の実施・運営にも携わる立場として、技術補佐員（アダプテッド・スポーツ推進担当）を任用した。

執筆者： 香田泰子・中島幸則・天野和彦・向後佑香・小森園一樹

視覚障害学生支援

1. 取組の目的

本取組は、視覚障害学生の支援に関する相談全般に対応することにより、視覚障害学生を受け入れている他大学等に対する支援を行なう。大学間ネットワークを充実させるために、各大学における視覚障害学生支援の状況を把握し、また、支援の技術や考え方を発信することにより、本学を介した大学間の連携構築を図る。

2. 活動報告

1) 視覚障害学生の修学に関する相談対応

全国の大学から修学に関する各種の相談（教材作成、授業・学習、進学・受け入れ、支援機器、バリアフリー、その他）を受け、メール、電話、来訪、往訪による対応を行なった。

視覚障害学生の修学に関する相談対応は、計 36 件であり、昨年度の同じ時期の相談件数（40 件）と比較して、数はやや減少したものの、一昨年度までの相談件数より多かった。広報活動によって本事業の知名度が上がったためとも考えられるが、昨年度より施行された障害者差別解消法の下、視覚障害者が進学希望する大学へ積極的に受験相談を行った、相談を受けた大学が合理的配慮の提供のため準備を検討した、という背景があると考えられる。また、昨年度受け入れに関する相談があった大学から、継続して入学後の相談もあったため、今年度は特に授業、学修に関する相談が昨年度より増えた。今後も、視覚障害学生の支援に関するニーズに応えていきたい。

■授業、学習（11 件）

プログラミングの授業の実施方法、全盲学生の書道の履修などがあり、期末試験の実施のタイミングで、定期的に点字端末を貸し出した大学もある。

■受け入れ（6 件）

全盲学生の入学を予定している大学から、修学支援の全般に関する相談があった。

■障害補償機器（6 件）

スクリーンリーダー、点字端末の使用方法、拡大読書器、点字プリンタの選定に関する相談があった。

■入試（3 件）

入学試験の実施方法（時間延長やパソコンの使用など）について、合理的配慮の考え方に関

する相談があり、他大学や公的な試験などの事例を基に情報提供した。

■バリアフリー（3件）

色弱の方にも見やすいキャンパスマップの作成に関する相談があった。また、来学者に本学のバリアフリー環境を案内し、他大学で実施しやすい方法を紹介した。

■学習資料（2件）

昨年もアラビア語等の外国語の履修に関する相談があったが、今年度はロシア語の点訳に関する相談があり、自動点訳の活用など多方面から情報を集め検討した。

■就職（2件）

公立図書館から求人に関する情報提供を受け、視覚障害学生の就職支援を行なっている大学に情報提供した。

■学内啓発（2件）

全盲学生が入学した大学において、職員や学外支援者と連携して学内啓発に協力した。

2) 視覚障害学生の支援に関する FD/SD 研修会への講師派遣

視覚障害学生が在籍または入学予定のある大学からの要請を受け、FD 講演会等において、視覚障害学生の修学に関する講演を行なった。また、支援学生向けの講座において、視覚障害学生支援の技術について講習を行なった。

- ・山形大学「障がい学生支援技術養成講座（視覚）」において講師（平成 30 年 2 月 14 日）
- ・東京経済大学 FD 講演会において講演「視覚障害学生への授業支援について」（平成 30 年 2 月 19 日）。
- ・東京経済大学 2017 年度学生支援・学習支援研修会において講演「聴覚障がい学生・視覚障がい学生のための授業支援・学生生活支援」（平成 30 年 3 月 16 日予定）
- ・八州学園大学 SD 研修会において講演「障害を持つ学生への対応—視覚障害を中心に—」（平成 30 年 3 月 23 日予定）



執筆者： 宮城 愛美

メールマガジン

【メールマガジン】

※「障害者高等教育拠点」メールマガジンで連載した「プロジェクトコーナー」・「活動報告等」を取組毎に転載しています。

（平成 29 年 5 月・第 13 号～平成 30 年 2 月・第 22 号掲載分）

■「プロジェクトコーナー」テーマ：

各取組の活動紹介、指導・支援の事例紹介、取組内容に関連した情報、等

キャリア発達支援

【執筆：宇都野康子、平成29年6月号】

「支援活動をととしたキャリア発達」

聴覚障害のある学生が受講する授業をパソコンノートテイクでサポートを行う大学が増えてきました。すでにパソコンノートテイクによる支援を実施している大学では、学内で支援している学生が、新たにパソコンノートテイクの支援活動を希望する学生に対して、入力方法のほか、学内の入力ルールを教える講習会を開催していることも多いようです。

こうした支援活動をととして、チーム全体のスキルアップや連帯感の醸成が促され、支援者として活動する学生にとっては、自らの協働力や統率力といったキャリア発達に必要なスキルが培われていくのではないかと思います。また、聴覚障害学生もサポートを受けるために自身の意思を表明し、サポートを受ける過程で、自己のニーズを伝えていくスキルを身につけることで、より良い支援につながる建設的な対話が生まれることでしょう。

パソコンノートテイクに限ったことではありませんが、共に学ぶ障害学生をサポートする活動では、支援に携わる教職員への報告・連絡・相談が必要となります。これらを含めた活動をととして、支援学生自身が担っている役割を理解し、責任を持ってやり遂げる力を培うことができる機会にもなり得ると思います。サポートする支援学生、支援を利用する障害学生の双方が、近年の就職活動で必要とされる対人スキルなどの能力や、自己効力感を高めることにつながると思います。こういった視点からも、今後パソコンノートテイクを含めて障害学生支援に関わる学生が、さらに増加してくれることを期待してやみません。

.....

【執筆：宇都野康子、平成30年1月号】

「聴覚障害学生の学外実習」

先日、聴覚障害学生の学外実習についてご相談をいただきました。資格を取得することを目的とした学科やコースでは、学外実習もあると思います。その際のコミュニケーション方法等についての相談でした。

まずは、実習先からの「実習生に与えられる注意事項」「大学への依頼事項」を関係者で共有する必要があると思います。その上で、実習先から求められている役割に対して、健聴学生とは異なる方法だとしても、業務上同じ成果をあげられるような代替方法を検討してはいかがでしょうか、とお返事いたしました。

また、これらの方法は、関係する先生方、聴覚障害学生と十分に検討し、その上で実習先に提案していただきたいことも併せてお伝えしました。

学外実習に限ったことではありませんが、聴覚に障害がある方は、「ながら作業」が難しい場合が多いため、注意事項などはその場で伝えるだけでなく、事前に伝えておくことも必要です。

例えば、実験や演習などでは、直接手で触れてはいけないものを学生に提示する場合には、「手で触れないように」と伝えてから提示します。聞こえの程度にもよりますが、聴覚障害学生が触れようとしているときに「それは触っちゃダメ」と大声を出したとしても、気付きにくいことがあります。ノートテイクがついていたとしても、情報の提示にはタイムラグが生じます。そのため、授業を担当される先生ご自身が、注意すべきことが伝わったことを確認した上で、提示していただきたいと思います。

.....

情報保障

【執筆：宇都野康子、平成29年5月号】

「授業中でのコミュニケーション」

授業が始まって、1ヶ月経ちました。情報保障の方法、支援者の配置など、そろそろ一段落した時期でしょうか。

本事業の一環とした取組で養成したパソコンノートテイカーは、本学の産業技術学部1年生が受講する講義の情報保障支援も担当しております。毎回の講義終了時に授業の感想などを書くリアクションペーパーを提出しています。その中には、情報保障（パソコンノートテイク）に関する要望が書かれることもあるようです。翌週の講義の冒頭に、前回の学生からのコメントや感想が読み上げられることもあります。ある回のコメントに「話が速くて字幕の情報も多くなるため、字幕を読むのが追いつかないので、もう少しゆっくり話して欲しい」と書かれていたそうです。

初回の授業の時に、リアクションペーパーには授業の感想のほかに、分かりにくいところなどについても書いてください、とおっしゃった先生は、コミュニケーションツールとしてもリアクションペーパーを活用しているのかなと思いました。

本学の学生も、これから様々な情報保障支援を受けていくこととなります。今後も、今回リアクションペーパーに書いたように、自身のニーズを把握し、配慮を求める力を養っていてもらいたいです。

また、今回の授業を担当した先生のように、学生からの意見にも耳を傾けてくれるという、双方向のやりとりの積み重ねが、建設的な対話につながっていくのかもしれない。

.....

【執筆：三好茂樹、平成29年9月号】

「遠隔情報保障システム[T-TAC Caption]の運用状況について」

今回は私が開発を担当した遠隔情報保障システム「T-TAC Caption」の利用状況について触れさせて頂きたいと思います。ノートテイクでは通常、教室の中にノートテイクと利用学生がいて授業の間発話内容を文字にして利用学生に伝えます。一方、遠隔情報保障システムであります「T-TAC Caption」では、学内LANやインターネットを介して音声・映像・文字情報等を、利用学生が持つタブレット端末と複数のノートテイクの間でやり取りします。当然、現地で見聞きしながら行う情報保障の方が環境音等を伝えやすいというメリットが大きいですが、このシステムでは教室内にノートテイクがいる必要性を無くすことが出来るために、それによって、従来までは難しかった様々な運用上のメリットをもたらします。すべての方々や組織に向けたものではございませんが、電波の届く範囲であれば歩きながらでも利用できるような特性も活かし、高等教育機関では各大学のキャンパス間での支援学生のシェアなどにご利用頂いています。

このシステムは数年前に東京都内の一般の高等学校での利用を念頭に置いて開発・改良を始めたシステムです。従来のもよりも機器セッティングなどの準備が簡単で且つトラブルも少なくなることを目標に取り掛かりました。今では、東京都内や京都府内などの学外初等中等教育機関8校にて、聴覚に障がいのある生徒さんが受ける「国語」などの教科で昨年度約2,100コマ(1コマ50分)の利用となりました。また、本学を除く高等教育機関12校にて「西洋建築史」等の講義で昨年度約1,500コマ(1コマ90分)となりました。その他、学外見学、学年集会等、入学式・オリエンテーション、教育実習やゼミ合宿などでの利用を合わせると、昨年度の合計利用時間は約4,000時間を実現しております。聴覚に障がいのある生徒・学生さんの総数は初等中等教育現場そして高等教育現場合わせて40名以上となります。

このような遠隔情報保障システムや情報保障システム全般に関しまして、ご興味・ご関心のある方は是非ご連絡下さい。内容に応じて私以外の専門家とも協議しつつ、ご返答・ご対応させて頂きたく思います。

.....

ろう者学

【執筆：門脇翠、平成29年7月号】

「自立活動で必要なこととは？」

今回は、ろう者学の取り組みの1つである、自立活動指導案の提供について取り上げたいと思います。今年より、指導略案をろう者学 HP にて随時追加していますが、それにはどのような狙いがあるのでしょうか。

大学、社会において、聴覚障害者が過ごしやすいようにする為には、周囲の理解や情報保障の依頼などが必要になってきます。それにはまず、聴覚障害者自身が動かないと何も始められません。私自身、重度の難聴でインテグレート教育を受けてきました。ことばの教室（難聴学級）の支援を受けながら小中学時代を過ごしてきました。にもかかわらず、高校、大学で自分に合った支援とは何か、自分のニーズについて悩んだ経験があります。

授業では「口が読めるから大丈夫」という変なプライドがつきまとい、なかなか人に情報保障をお願いできなかつたのです。情報保障に頼ることは、自分の障害に対する意識が変わってしまうと自己変化を恐れていました。しかし、大学での聴覚障害者との出会いを通して少しずつ自分の中で感化されたのか、いつの間にか情報保障を抵抗なく受けるようになっていました。大学に入る前に、自分を知り、さらに自分を発信できる力があれば、4年間をより有意義に過ごせたのでは？と、卒業して2年が過ぎた今でも思います。そんなエンパワメント力や自己形成を助けようと指導略案の提供が始まったのです。今後も随時追加していきますので、是非とも活用していただければ幸いです。

ろう者学 HP 自立活動指導案：<http://www.deafstudies.jp/info/jiritsu.html>

.....

【執筆：門脇翠、平成30年2月号】

「「段また段を成して」を通して」

1月24日水曜日、本学（天久保）にて「段また段を成して」の上映会を開きました。上映後に、映画の中でナレーションを務めた川俣郁美さんに「米国留学と映画出演を通して学んだ、ろう運動の大切さ」というテーマでお話しいただきました。

詳細については、以下をご覧ください。

全日本ろうあ連盟 映画紹介 Web サイト

<https://www.jfd.or.jp/70kinen/movie>

講演会の報告（ろう者学 HP）

<http://www.deafstudies.jp/info/news0118.html>

川俣さんのお話の中に、「ろう者に“不可能”はない」というメッセージがありました。「段また段を成して」はまさに、その“不可能”を“可能”に変えたこれまでのろう者の活動について、取り上げています。全日本ろうあ連盟とは何か、何のためにあるのか、どうしてそこに仲間がたくさん集まるのか…そのデフコミュニティの疑問を解くヒントがたくさん詰まっていました。また、デフコミュニティはきこえない人だけの集まりではありません。つまり、これまでのろう運動は、きこえるきこえない関係なく、多くの理解者が集まって運動を後押ししてくれたものであることが映画から伝わりました。ろうあ連盟に入会した時は、デフリンピックを目指したいからとりあえず登録する、そんな軽い気持ちからですが、今回の映画を通して、もっと地元のろう協との関わりを持った方が良いのではないかという気持ちにさせられました。この映画が市議会会で上映された地域もあり、それを機に県内での手話言語条例制定のための取組が始まったところもあるのだそうです。

今後、各教育機関でも上映会を企画されてはいかがでしょうか？

.....

視覚障害学生の修学支援

【執筆：宮城愛美、平成29年5月号】

「視覚障害学生が履修可能な科目は？」

毎年、年度が切り替わる時期に、視覚障害学生の科目履修についてご相談があります。

第二外国語の履修については、フランス語、ドイツ語などの一般的に人気のある(?)言語は、対応可能な点訳グループがあります。語学の学習に欠かせないのは辞書ですが、それらの言語については点字端末上で使用できる点字辞書も販売されていますので、比較的履修しやすい環境があるといえます。難しいのは、対応可能な点訳グループも見当たらず、点字辞書も入手できないような言語の履修です。先日も、そのような言語の履修について相談があり、偶然、点訳可能な方を探そうことができましたが、見つからなければ履修できなかったかもしれません。テキストデータを使って音声で学習するスタイルを基本とする視覚障害学生も増えてきましたが、初めて触れる言語を音声だけで履修するには限界があります。点字による学習資料の不足を感じる場面です。

また、絵画や書道の履修についてもお問合せがあります。視覚障害者がそれらの科目を学習する、確立された方法は恐らくありませんので、手探りで検討していくこととなります。全盲の学生であれば、可能な限り触れて体験して、視覚的な情報は何らかの方法で補足していくのが基本です。作品の立体コピーを作成して触れてもらう、教員やTAが手取り足取りして指導する、などの方法があるでしょうか。

以上のように、視覚障害学生が履修するための環境や方法が十分整っていない科目がありますが、方法を開拓していった大学の事例もありますので、まずは検討することから始めていただければと思います。

.....

【執筆：宮城愛美、平成29年12月号】

「図書館で働く視覚障害者」

先日、公立図書館で勤務する視覚障害者の業務内容について話を伺う機会がありました。これまで点字図書館の役割と思われてきた視覚障害者向けのサービスを、多くの公共図書館で提供し始めており、それらに詳しい視覚障害者の活躍が求められているそうです。本学出身でも図書館で働いている全盲や弱視の卒業生がいますが、全国では少なくとも10館以上で20人以上の視覚障害者が働いており、今後も採用が増えていくことが期待されます。視覚障害者向けサービスにはDAISYや対面朗読などがあり、ディスレクシアや高齢の利用者にも喜ばれるそうです。また、視覚障害者向けのサービスに限らず、中堅になると業務管理等も可能で、視覚障害者が自分のスキルに特化した業務を行なえる職場ということでした。

今回お聞きして驚いたのは、図書館業務が非常に視覚障害者に向けた仕事であることの発見と同時に、不勉強の私だけでなく、視覚障害者の教育に関わる多くの方にそのような認識があまり無かったということです。近年、各大学の支援の充実により、視覚障害者の大学進学の実績は幅広くなってきたことを、支援に関わる者として実感していますが、職業の実績が広がったことは残念ながらあまり感じることができていません。このような職種を始め、視覚障害者に少しでも多くの就職の情報を伝えるべきと思いましたし、今回のように資格を取得することが望ましいこともありますので、早めに情報を伝えて、将来の展望を持ってもらうことが大切であると感じました。今回の図書館業務に関する詳細情報は、視覚障害学生が在籍する大学に個別にご紹介させていただきましたが、今後もより多くの組織・機関等との連携を進め、就労に関する情報を提供できればと考えています。

.....

視覚障害情報機器の評価

【執筆：飯塚潤一、平成29年10月号】

「最近の視覚障害者・学生用の情報保障機器について」

視覚障害学生の就学や日常生活において、LEDルーペ、単眼鏡、およびスクリーンリーダーなどの情報保障機器・ソフトウェアが、とても有効です。

本学では、日本で入手できる視覚障害者用の情報保障機器を約400製品揃え、本学在学学生だけでなく、皆様の大学に貸出し、多様な場面でその有効性などを評価いただいています。

ここ数年間を見ても、技術の進歩やニーズの変化に対応して改良されたり、新製品が開発・販売されています。本学でも、機器展示会や学会併設の機器コーナーで情報収集しています。最近、目に留まったいくつかの製品を順不同でご紹介します。

- (1) 卓上型 DAISY プレイヤーのデザインが一新しました (PTN3, PTR3)。
- (2) 卓上型の小型軽量の立体コピー機が開発中です (EasyTactixX80)。
- (3) 腕時計型の点字表示器が開発中です。点字が4マス装備され、時計、カレンダーもしくは短い文章であれば表示することも可能です。
- (4) これまで携帯型拡大読書器と呼ばれていたものが、最近は電子ルーペと称し2～3万円で販売されています。据置型と併用して個人で購入できる値段だと思えます。

[事務局補足]

メールマガジンでは視覚障害者向け総合イベントの案内が記載されていましたが、すでに終了したため、本報告書では省略します。

.....

体育・スポーツ

【執筆：天野和彦、平成29年11月号】

「障害学生に対する体育実技についてのデータベース公開について」

本拠点事業「体育・スポーツ」においては、聴覚・視覚障害学生の体育・スポーツに関する教育支援を実施しています。これまでに、授業の計画・立案段階での相談・助言から授業での直接的な支援に至るまで幅広いご活用をいただいております。また、これら教育支援とあわせ、この分野に関する情報提供にも積極的に努めているところです。

今回は、すでに利用が可能となっておりますデータベース「障害学生に対する体育実技についての事例検索」をご紹介します。全国の大学・短大を対象に実施した「障害学生に対する体育実技についてのアンケート調査」の結果をもとに、障害学生に対する体育実技の事例を整理し、実技内容や実施体制などについて Web 上でご覧いただけるようになりました。障害別に事例を検索することも可能となっております。障害学生の体育実技を検討される際のヒント・手助けとしてご活用ください。体育・スポーツ関係の教職員のみなさまに広くお知らせいただければ幸いです。

アクセス先：本事業 HP <https://krk-ntut.org/>

教職員だけでなく、学生対象の講習会の開催や講師派遣につきましても、これまで同様実施いたしております。こちらもお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先(体育・スポーツ担当): kyoten.taiiku-ml@k.tsukuba-tech.ac.jp

.....

語学教育に関するアカデミック・アドバイスの提供

【執筆：松藤みどり、平成29年8月号】

「語学教育に関するアカデミック・アドバイスの提供」

近年、大学の語学教育は二極化していると言われます。高校で身につけた能力に更に磨きをかける取組みとして、英語で専門科目の授業を行ったり、海外研修に積極的に送り出したりするような教育と、中学の英語からやり直さなくてはならないような学力の学生を抱える教育です。また、英語以外の外国語については、履修できる大学と、第二外国語は必要なしとして全く開講しない大学があります。

日本学生支援機構の調査によれば、聴覚または言語に障害をもつ大学、短大、高等専門学校に在籍する学生は、平成18年には1,200人、平成23年度には1,556人、28年度は1,917人と、増加傾向にあります。進学する聴覚障害学生の中にも高度な内容を求め、外国語でディスカッションに参加できるような力のある学生もいれば、基本的な文法力や語彙力が身につかないまま入学する学生もいることが想像できます。また、聴覚障害以外の障害を併せ持つ学生も増えています。語学の支援も、学生の多様性に応じた方法が求められてきています。

9月9日に筑波大学東京キャンパス文京校舎で実施するシンポジウム「聴覚障害学生の語学教育のイコールアクセスを考える」では、当事者による体験発表が二件あります。一件は英語のみならず第二外国語も履修している学生、もう一件は大学院で学ぶ盲ろうの学生によるものです。

この他、英語を指導している教員や支援担当教員から、支援学生からのフィードバックも含めた報告がなされる予定です。熱い議論が展開されることを期待しています。

.....

活動報告等

第 10 回 FD/SD 研修会「大学等における障害学生支援～聴覚・視覚障害学生支援の事例に学ぶ～」ワークショップ開催報告 【平成 29 年 9 月号に掲載】

8 月 29 日（火）に山形大学で開催しました、障害者高等教育拠点事業第 10 回 FD/SD 研修会から、聴覚障害・視覚障害学生支援ワークショップについて、担当者からご報告いたします。

ワークショップ①（聴覚障害学生支援） 担当者：宇都野康子

本ワークショップでは、聴覚障害について学んだあと、疑似体験の一環として口形だけで情報を伝えていく伝言ゲームを行いました。講師側として間違えだろうと予想していた言葉以外にも多くの伝える言葉の間違いが起きていて、参加されたみなさん自身が驚いていたのが印象に残りました。口の形だけでは、思い込みもありますし、聞き手が知っている言葉で読み取ろうとします。体験後に「筆談も使えたら正しく情報が伝達できた」という感想が見られました。相手が何について発言するのか分からない場では、正しく情報を聞き取る・伝えるために、どんな工夫ができるか、考えていただくきっかけになったのではないかと思います。

ワークショップ②（視覚障害学生支援） 担当者：宮城愛美

本ワークショップの狙いは、弱視の疑似体験を通して、視覚障害学生のニーズの複雑さを実感し、そこからニーズに応じた柔軟な対応が必要であることに気づいていただきたい、ということでした。強度近視、白濁、視野狭窄という見え方を体験しながら、紙の資料を読んで知りたい情報を探す、会場内を歩いて人を探す、といった課題を設定しましたが、参加者は、たいへん熱心に取り組んでいました。

時間の制限から、実際の配慮方法や支援技術に関する解説が不十分だったことが反省点ですが、体験後の感想では、こちらが解説しなかったような視覚障害の特性について、体験を通して気づかれた方もおり、期待していた以上のことを感じ取っていただいたようです。

第 10 回 FD/SD 研修会で実施したワークショップに関する詳しい開催報告は、事業ホームページにも掲載しております。

[「障害者高等教育拠点」事業ホームページ]

<https://krk-ntut.org/info/1445.php>

「聴覚障害学生の語学教育のイコールアクセスを考える」開催報告

【平成 29 年 10 月号に掲載】

9月9日(土)に、筑波大学東京キャンパス文京校舎を会場として開催しました。

聴覚障害学生の外国語科目の指導・支援に関する事例報告等の発表 6 件のほか、本取組のアカデミック・アドバイザー細野昌子氏より指定討論として、聴覚障害学生の語学科目の支援等について課題を提起され、フロアからの質問を中心に、発表者全員によるパネルディスカッションを行いました。

当日は、情報保障として、手話通訳、触手話通訳、パソコン文字通訳を配置しました。

アンケート回答では、「ろう学生の英語教育に関わる様々な立場(当事者・支援者・教員)、大学の話が聞けて大変良かった」「様々な支援の方法があり得ることを知ることができた」という感想がありました。

開催報告は、本学のホームページにも掲載しております。

[筑波技術大学ホームページ]

http://www.tsukuba-tech.ac.jp/news/ntut_2017092601.html

.....

「第 13 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム」における本事業関連の企画実施について 【平成 29 年 11 月号に掲載】

10月28日（土）～10月29日（日）に、北海道江別市の札幌学院大学において、「第 13 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム（PEPNet-Japan 主催）」が開催されました。

本シンポジウムでの企画の1つとして実施された教職員対象企画「教職員による聴覚障害学生支援実践発表 2017」で、本事業の「情報保障」で取り組んでいる「パソコンノートテイクー養成」について、ポスター発表を行いました。

今回は、講師として担当した、他大学で開催されたパソコンノートテイク講習会についてタイムスケジュールやカリキュラムや講習会でのポイント、活用しているソフトウェアなどを紹介しました。今後のパソコンノートテイク導入を検討される際のご参考になれば幸いです。

また、この企画以外の会場でも、情報交換をさせていただき、参加された教職員の方々の障害学生支援に対する熱意を感じました。ご来場いただいたみなさま、ありがとうございました。

.....

「講習会への講師派遣」 【平成 29 年 12 月号に掲載】

今年の 9 月～11 月の間に、他大学で開催される障害学生の修学支援に関連する講演会等への講師派遣を 3 件お引き受けいたしました。ご依頼いただいた大学の教職員を対象とした講演会の他、会場校以外の大学教職員を対象とした講習会にも講師を派遣しました。

内容としては、平成 28 年 4 月に施行された障害者差別解消法に伴い義務付けられた合理的配慮の提供を、大学としてどのように取り組んでいくのかというテーマで講演させていただきました。また、具体的に聴覚障害学生支援をテーマとした講習会で、授業における配慮や情報保障についてお話する機会もありました。

どの会場でも、みなさんが熱心にメモをとったり、具体的な質問をされている様子がみられました。

会場校以外の大学教職員を対象とした講習会などでは、以前から障害学生と直接関わる部署の業務を担当されている職員の参加が多かったのですが、ここ数年の傾向として、関連部署の課長、課長補佐の役職に就いておられる方の参加もみられるようになりました。現場レベルでの情報共有だけではなく、大学全体として取り組んでいるからこそ、こういった講習会等に参加いただいているのだと思います。また、講習会の場が、他大学との情報交換の場となることで、自大学に持ち帰り、活用・応用できる方法も増えるのではないのでしょうか。

このような講演会や講習会への講師を派遣することにより、他大学における障害学生支援の取り組みを伺う機会となり、さらに本事業として提供できる情報や障害学生支援にお役立ていただけるコンテンツ開発のヒントをいただくことができていると考えています。

今後も、本事業でお役に立てる機会がございましたら、講習会等の講師をお引き受けいたしますので、事務局 (krk-net@ad.tsukuba-tech.ac.jp) までご一報ください。

.....



卷末資料

開催報告（本学 Web サイト「ニュース」掲載）

ホーム > ニュース > 第10回「障害者高等教育拠点」FD/SD研修会を開催

第10回「障害者高等教育拠点」FD/SD研修会を開催



8月29日 火曜日、山形大学小白川キャンパスにおいて、全国の大学で障害学生支援に携わる教職員を対象とした第10回FD/SD研修会「大学等における障害学生支援～聴覚・視覚障害学生の事例に学ぶ～」を開催しました。これは、教育関係共同利用拠点(文部科学省認定)である障害者高等教育研究支援センターが「障害者高等教育拠点」事業の一環として、会場校である山形大学と共催したものです。

山形大学、全国の大学・関係機関より障害学生支援に携わる教職員など32人の参加がありました。アンケート回答では「視覚障害の疑似体験で歩きにくさや距離感が掴めなかったことが初めての体験で驚いた」「支援学生に頼るだけでなく、教員の授業の工夫も必要だと感じた」という声が聞かれました。写真は講演の様子です。

各ワークショップの報告については、「[障害者高等教育拠点](#)」事業ホームページに掲載しています。

(障害者高等教育研究支援センター 「障害者高等教育拠点事務局」/2017年9月15日)

ホーム > ニュース > 「聴覚障害学生の語学教育のイコールアクセスを考える」を開催

「聴覚障害学生の語学教育のイコールアクセスを考える」を開催



9月9日 土曜日、筑波大学東京キャンパス文京校舎において、全国の大学・関係機関の教職員および聴覚障害学生の語学指導担当者・支援担当者を対象とした「聴覚障害学生の語学教育のイコールアクセスを考える」を開催しました。これは、教育関係共同利用拠点(文部科学省認定)である「障害者高等教育拠点」事業の一環として開催したものです。

英語教員、支援者、ろう学生、盲ろう学生の立場等からそれぞれ発表があり、質疑応答の後、指定討論、ディスカッションが行われました。参加者からは、ろう学生の英語教育に関わる様々な立場(学生・支援者・教員)からの話が聞けて、また、様々な支援の方法を知ることができて良かったとの評価がありました。反面、小学校英語や中学校、高等学校の支援情報も欲しい、語学教育の学会への広報に力を入れて、参加者を増やすべきだとのご意見もいただきました。より良い支援は本人と支援者間の振り返りから生まれる事を再認識する機会となりました。

写真は、会場の様子です。

(障害者高等教育研究支援センター 「障害者高等教育拠点事務局」/2017年9月26日)

取組担当者

他大学の教職員を対象としたFD/SD研修会の開催			
宮城 愛美	宇都野 康子		
キャリア発達支援			
石原 保志	宇都野 康子		
ろう者学			
大杉 豊	小林 洋子	門脇 翠	
情報保障（聴覚障害関連）			
三好 茂樹	宇都野 康子		
体育・スポーツ科目への支援			
香田 泰子 小森園 一樹	中島 幸則	天野 和彦	向後 佑香
視覚障害学生支援			
飯塚 潤一	宮城 愛美		
語学教育の指導・支援（聴覚障害関連）			
松藤 みどり	須藤 正彦	大杉 豊	

筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 「障害者高等教育拠点」事業
平成 29 年度（2017）活動報告書

発 行 者 筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター
〒305-8520 茨城県つくば市天久保 4-3-15
TEL/FAX : 029-858-9483
E-mail : krk-net@ad.tsukuba-tech.ac.jp
<http://www.a.tsukuba-tech.ac.jp/ce/kyoten/>

編集責任者 須藤 正彦
編集幹事 宮城 愛美 宇都野 康子
編集協力 橋本 万里菜

文部科学省認定 教育関係共同利用拠点
障害者高等教育研究支援センター

「障害者高等教育拠点」事業



国立大学法人

筑波技術大学

National University Corporation
Tsukuba University of Technology

